武藝考

武藝十五之十八

和書門
類
二〇七八〇號
六〇函
七架
四〇冊

内閣文庫
和書
類
二〇七八〇號
四〇冊
二九函
一五架

内閣文庫
番號 和 20780
冊數 40 (22)
函號 209 108

国立公文書館
National Archives of Japan

類聚名物考巻之

武藝部　十五

馬

内閣文庫

八雲御抄ニ

馬牧

○拾芥抄所出牧名

柏前　夏良野　穂坂　已上甲斐　石川　田口

立野　小野　秩父　已上武蔵　山鹿　沼田

巨摩　平井手　笠原　弓馬　夏原　垣内

太野　大室　猪鹿　萩倉　形岡　長倉

沼野　望月　已上信濃　利鹿　多多島　沼尾

群馬　久野　市代　大藤　沼山　形尾

已上上野　以上出大和国内中村西岡の牧八所

○望月牧　信濃国

○紀貫之集二八月朔日之人　拾遺集　与坂の関の

花迺家文庫

内閣文庫

神代文庫

水上新三郎へ今年分ハ　七月の分　○拾遺集　春歌

七月の三角ゑ　春歌　秋の分　○

同上　又ハ　右大臣頼朝公　秋の夜の七月の歌

引まそ　ハ

七月の歌　○　後撰集　十六　雜二

延喜の御時　ハ

七月の歌　ハ

○穂坂　ハ　ハ　ハ　甲斐

○文水抄　ハ　ハ　ハ　行平卿の歌　春歌

行坂の小野の七月の歌　秋の歌

○小笠原　へ三の小坂　甲斐へ　丸ヶ　伊豆　非し　小笠原へ三同抄

○紀貫之集之　歌　ハ

へ三の三角の歌　○　吉野　漢人　小笠原

へ三の三角の歌　ハ

後西院　仲文　小笠原へ三の三角の歌　○　堀河

○小笠原　へ三の三角の歌　ハ

○文水抄　後成　小笠原　甲斐の国の歌

○三の山坂

○源重之集　人丸　水の三角の歌　○　源頼政集　海河原　山城の

○三の三角の歌　時代　ハ

神代抄　ハ

○桐原坂　ハ

○歌枕名寄　山名　ハ

五ワ　ハ　ハ　ハ　桐原の歌　○　拾遺集　秋　天成三年遠

桐坂の実の名ハ　ハ

○廣拾遺集 秋上 加家 [illegible]

[illegible]

○駒牽

欽林拾葉之秋

○國馬

○莊子八徐無鬼 吾相馬、直者中繩、曲者中鉤、方者中矩、圓者中規、是國馬也、而未若天下馬也、天下馬有成材、若卹若失、若喪其一、若是者、超軼絶塵、不知其所

○天下馬

○同上

○寶馬

○史記八十七李斯傳 公子高欲奔、恐收族、乃上書曰、先帝無恙時、臣入則賜食、出則乘輿、御府衣臣得賜之、中廄之寶馬、臣得賜之、臣當從死

○課馬

○輟耕録七俗呼牝馬為課馬者、唐六典、凡牝四遊五課、羊則當年而課之、課歳課駒犢也

○竹馬

○欽林拾葉八

○草馬

○草駒

○匡謬正俗六問曰、牝馬謂之草馬、何也、答曰、李以牡馬壯健、堪駕乘及軍戎者、伏皁櫪芻而養之、其牝馬唯充蕃育、不暇服役、常牧于草、故称草馬耳、淮南子曰、夫馬之為草駒之時、跳躍揚蹏、翹足而走、人不知制、高誘曰、五尺已下為駒、放在草中故曰草駒、是知草之得名、主於草澤矣○今案ハ良馬を小廄ニ[illegible]櫪ニ[illegible]ル者ハ[illegible]草駒ハ[illegible]ル者ハ[illegible]

[illegible]

○淮南子十九脩務訓 北馬之[illegible]特[illegible]
揚[illegible]、翹尾而走、人不能制。注馬五尺以下為駒
故在草中、故曰草駒

○[illegible] 驅馬

○支不坊四春家集 [illegible] 山[illegible]

○騊駼奇馬の形[illegible]

○[illegible]馬

○大鏡十二 太政大臣坊 [illegible]西洞院の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○名馬

○後漢書六十六循吏列傳、建武十三年異國有獻
名馬者、日行千里、又進寶劒寶弓百金、詔以馬駕
敞車、劒賜騎士

○駿馬 [illegible]

○白氏文集廿五 [illegible]出律春寒遊正好、駿馬薄綿衣

○文馬 [illegible]

○尤氏傳 杜預注、文馬畫馬為文、○後漢書七十九
南匈奴傳、詔乃聽南單于、入居雲中、遣使上書、獻
駱駝二頭、文馬十匹

○小馬 大馬

○淮南子十六說山訓 小馬非大馬之類也、小知

非大知之類也○小馬不可以遠道行千里、故不得与大馬同類也

○細馬

今之細物之高[illegible]細麻之文[illegible]
之[illegible]細布[illegible]古事記之久波高賣[illegible]
是之細貫之一百[illegible]
以之細貫細女の[illegible]略言[illegible]
[illegible]宮治の[illegible]愛姫[illegible]細物の表[illegible]
[illegible]細[illegible]麻[illegible]
[illegible]の六典[illegible]細馬麤馬[illegible]麻[illegible]
[illegible]

○白氏文集卅三 二月二日新雨晴草芽菜甲一時生、軽衫細馬春年少、十字津頭一字行○之代實録四十五 元慶八年三月五日丙寅、喚左右馬寮十列細馬於仁寿殿東庭覧○遊玉集中六十五 讀字 欄字

節屬煙霞人景好、香袂細馬互相尋○唐六典十七 典廐令掌擊飼馬牛、給養雜畜之事、亟為之貳、凡象一給二十、細馬一、中馬二、駑馬三、駞牛騾各四[illegible]○諸牧[illegible]凡馬有左右監、以別其麤良、以數紀為名、而著其簿籍、細馬之監称左麤馬之監

右

○小歩馬

○前漢書九十六 西域傳烏秅國、出小歩馬○注師古曰、小細也、細歩言其能蹀足即今所謂百歩千跡者也

○驕馬

[illegible]馬[illegible]上馬 ○騰馬 ○[illegible]馬[illegible]
[illegible]白馬[illegible]
[illegible]
○白氏文集廿六 旌鉞從蠻鼓寰僚礼数全、夔龍来要地、鵠鷺下遼天諸汗騎驕馬青蹏無醉倒[illegible]

○文選 舞賦傳中武良駿逸足搶捍凌越。注李善曰、駿馬也逸疾也、搶捍馬走疾之貌、言馬駿逸奔突、而走相凌越也。李周翰曰、搶捍勇躍也凌越急如飛 ○明月記寛喜二年二月廿五日 仍有紅甘白毒毛童形 紫給甘前共衣濃多同袴 仍雖色花田甘山吹衣 濃雖色ノホリハ少シテ以錦巻 丹桜花 紫驕馬

○退馬 宗明記の云

○退い退張退去

以等の古文退字を退潛とも以り俗に大津の

の証明

○白氏文集 卯年廿七 猶諸年 光憲退馬霑芻秣

猶致仕 年傳也 高喜歸鴻脫戎羅

○下乘

○文選 為曹洪与魏文帝書陳孔璋襲之者固以為圉圄之伝鳥外厩之下乘也

○陸梁馬

○明月記 正治二年十一月廿一日 仍相向中納言二人取 仍送 和琴 右中辨長房清取 同人取 引 仍馬 陸梁 給 以御祿之

○沛艾馬

○文選 籍田賦 潘安仁 龍驤騰驤而 普會反 沛艾表朱玄於喬坎、飛青編於震兌。注李善曰、東京賦曰、騰驤之沛艾。薛綜曰沛艾作姿容貌也、司馬相如大人賦曰、沛艾赴嶮。張銑曰騰驤沛艾皆馬行貌也 ○明月記 正治二年十二月廿一日 仍相向 右中辨長房 清取 同人取 仍引 仍馬 陸梁 給 以御祿之 ○同 義元二年九月廿 九日天皇令命 仍於仁和寺大教院 仍相向 右中辨長房 清取 同人取 引 仍馬 陸梁 給 以御祿之 ○同 義元二年九月廿 九日 仍一七日八講 辛子長 来行 辛子 第ニ 解退下 及 未時 出家 仍 右大臣 及 仍 俗 西山 沛艾馬節

日渡[illegible]

○鐵馬

○文選 石闕銘 陸佐公鐵馬千群、朱旌百里。
注鐵馬鉄甲之馬 ○後漢書 公孫瓚与子書
曰、屬五千鉄騎於北邊之中

○陸梁馬

○明月記寛喜元年十月廿[illegible]九条殿陸梁馬頭
行[illegible] ○文選第二西京賦 張平子 性獸陸梁、大
雀跨[illegible]。薛綜注 陸梁東西倡佯也。劉良曰 陸
梁跨[illegible]皆行走貌

○果下馬

○後漢書 七十五 東夷 濊國傳 又多文豹有果下馬
○注 高三尺乘之可於果樹下行 ○今[illegible]
俗[illegible]土佐駒 [illegible]土佐郡人橘常樹[illegible]
[illegible]国馬多[illegible]小馬[illegible]一種の産

[illegible]北馬の[illegible]輸[illegible]
[illegible]
他国[illegible]の求[illegible]八国[illegible]
[illegible]国[illegible]
[illegible]養[illegible]

○學山録 巻六 [illegible]明遠 魏志挹婁國出果下馬 漢
桓時獻之、裴松之注果下馬高三尺乘之可于果
樹下行、故謂之果下、又北史周弘正傳宣城王所
愛給一果下馬常服御之、又顔氏家訓、風操篇亦
有果下馬云、漢書霍光傳注、師古曰、小馬可於果
樹下乘之、故号果下馬、據此則其称也久矣是
皇朝称土佐駒者也、貝原翁大和本草、和爾雅亭
以為果下馬、出于大明一統志者甚失之考索也

○桂海虞衡志、果下馬 栗道

○土佐駒

○雅遊爾在集 雅 土佐家の書[illegible] 今所伝[illegible]

[illegible]

○倚馬　驛馬

○舜水文集廿七陽九述畧　幽冀兗豫五雍每北倚馬驛馬、倚馬有孳生印絡之辨、驛馬有恤馬需索等弊

○良馬

○後漢書ニ十五呂布傳、有漢布得走投袁紹、紹与布擊張燕於常山、燕精兵万餘騎數千匹、布常御良馬、号曰赤兎、能馳城飛壍。注曹瞞傳曰、時人語曰、人中有呂布、馬中有赤兎。○警象待　良馬既用、震服有暉

○龍馬

○文選　赭白馬賦　顔延年驥不称力、馬以龍名。注書善曰、周礼九馬八尺以上為龍。尚書中候

曰、帝堯即政七十載、修壇河洛、仲月辛日、礼備至于日稷、栄光出河、龍馬銜甲、赤文緑色、臨壇吐甲圖。黄伯仁龍馬賦曰、或有奇負絶足、蓋為聖德而生

○蟾蜍

尺素往来

○雞斯　駒虞

○淮南子ニ道應訓　屈商乃拘文王於羑里、於是散宜生、乃以千金求天下之珍怪、得駒虞雞斯之象。注駒虞白虎黒文而仁食自死之獸、日行千里、雞斯神馬也

○父馬　牡馬也

○史記　平準書

○騰馬

○呂覽ニ季春紀　是月也乃合纍牛騰馬游牝

北牧。注縈漬北詩商纍之纍纍牛父牛也騰馬
父馬也皆將羣游後北牧之時風合之○淮南
子五時則河 季春之月云云乃合犢牛騰馬游
牧于牧。注犢牛牝牛也騰馬騰駒跳號善將群
者也游後北牧所牧之地風合之○今案品質之
父馬也。注淮南子[illegible]騰駒騰駒跳號善將群
[illegible]

○淮南子五時則河游北別其群執騰駒班馬政
。注是月北馬懷胎已定故別其群不欲騰駒號
偉其胎育故執之班告也馬政掌馬官也騰駒騰
馬也周礼馬五尺以曰駒○文選 許 逸 騰騰
夷

○逸足

○文選 舞賦 傳武仲子良駿逸足搶捍凌越。注

逸疾也

○快馬 [illegible]

[illegible]世注[illegible]快舟[illegible]快牛七足[illegible]牛
○南史 曹景宗傳我昔在御宴騎馬如龍逐聲
數肋射之覺身後生風梟頭出火
○舞馬 [illegible]

○明月記 天福元年七月[illegible]了被引[illegible]殿
上人[illegible]

○[illegible] 歲千駒 ○今案[illegible]
[illegible]馬の寸尺をすきらかにすいらの假
[illegible]明月記 神酒[illegible]之本又之[illegible]何寸尺[illegible]
[illegible]
○[illegible] 裸背 空馬 三朝文[illegible] 不置鞍 明月記
[illegible]明月記 鞍の[illegible]

○綱引駒

○蜻蛉日記　あつま山より駒ひきてのほりける人の家にいきて見ちかへり　あつまに年へたる山里の家なり
――綱引駒ともおもひけり

○三歳駒

○曾丹集　三とせになりける駒に手をかけてなつけつゝひくへき
秋のけふの時人

○寮御馬　杙のみこ成

○明月記　元仁二年乙酉二月十三日上皇左府每例称
禁裏近習僧正人者、以列件所之例、大先擬之酉
事、以太刀之峰打之、其後各所謂称寮御馬
仍引進於大内　委細別記之

○手馴駒　ひさしくなれたる也

○後撰集十恋二　まとろのなうりけれは小町のおや
かつての一むらすゝきかりそめに君をそ見てし手馴の駒の

○縄絆駒　なつけたる駒也

○蜻蛉日記上一　駒なけすなはまたつはなつはなつ
ほたしとそ見のこるけり　○今案縄端へなつけたる駒也
縄をとりてしつかにひきつれなつけてひく縄絆をはなちいれ
はなちつゝはなつ縄絆をもとりなつけしとなりけり

○後拾遺集雑二　かへりきてむかしのありしを
はなちてつなかぬ駒のなかなるや

○引馬　ひくうま也

○河花集二上　世に在仲かよりしけれは(?)内房のうちにまゐりて(?)
清少納言
はてゝは印綬しまつる事すなはち宮のおのみやのうちまゐる
かの人の衣を盗みて行けるとき夜ふかくなりにける
けふたちへかくならむとは思ひしかと引かしける衣をかけて
いたく待ちけり　駒の内にまゐらせたりけれ
切るゝ御の房あり自ら衣をうちかけて引馬にしてけり
かのかつやかてかのうちにいたりて　又今年の物を大饗にせ

[illegible]

牽馬

牽馬いまれし

○淮南子 秦族訓 葛嶲伐之兵不血刃抱

宝牽馬而去

蒲梢 梢音所交反

龍文 連錢足也

奚目

汗血 赭汗自氏 赤馬し赭汗 紀要

○西漢書 九十六 西域傳 車師都尉國蒲梢龍文魚

目汗血之馬是也 注孟康曰血駿馬名也

○白氏文集 共旌鉞後囊鞬賓僚礼敷全夔龍衆

要地、鵝鸞下遼天、赭汗騎驕馬、青蠅舞醉仙三

布施馬

○後漢書 輿服志 大行、載車、其飾如金根車、金

車、大僕御駕、布施馬、布施馬者、淳白駱馬也、以

黒槀灼其身為虎文

駃馬 突馬

○淮南子 氾論訓 故以樸壹之法治既弊之民

是猶無鑣銜而御駃策鈒而御駃馬也 注駃馬突馬

也

駿馬

○淮南子 秦族訓 秦穆公為野人食駿馬肉

文傷也、飲之美酒、韓之戰以其化力報非秦之所

十

賣也

○移馬　うつしうま

あつまの軍家なとにも移鞍なといふことありけるにや〔?〕○このわたりのことはよくしらぬ〔?〕

これはまたいつれもおなし同餘にてまことにちかきところをあつめてしるしつ

家移のことなとはありけるにや明月記文暦二年二月十日准后

御書日詣之被参御輿之間南庭騎馬御柳本〔?〕之移廄

くに自奈良より合力の料としての移廄に御輿寄なとありき

また此移といふことはいかにもあれ〔?〕とにかくこの意なるへし

○明月記文暦元年二月九日春日祭弁少将自内府亭

出立候由申之未時許金吾来弁少将出立之時〔?〕紫色宣旨之事

許也門生前駈笠持卅次移馬舎人二人褐葉菊〔?〕青衣次弁持弓騎

前追なし○同建久十年三月十一日右大将拝賀之東洞院

於門前小屋伺見移馬居飼舎人各四人云々○

正治二年正月一日云々被召具移馬八疋〔?〕舎人葦毛雅朝中将〔?〕具引

進之○安多武久路中五美寿俊〔?〕移鞍とあり寿俊云云

續世繼
鳥羽の御を二の
巻ふる三

移鞍といふはけれとも軍家なとにも同餘にいふやうなと識論のうちにありける中宮移鞍

のうちの出移文よりはなるといふ家移のことのありてなに〔?〕ことのり様なれ

のはなにもなくいくさのかたにもその家移をいふ義にしてあることありて平家

物語のいくさに成れば御幸のたびなとのかたの吉記を見ればさて移ば

又段合なとけれはまたなるにとにかく馬移をも同餘なとなるとも移ともいふなり

ともしらぬ

○神馬

千里のうまにはいかなり今俗の社移のうまあるいは神馬とよひて久

馬野〔?〕

○神馬〔?〕即ち雑事にて駒鞍の〔?〕

○續日本記巻之文武天皇慶雲元年五月甲午

備前國獻神馬西楼上慶雲見詔大赦天下改

元為慶雲元年高年老疾並加賑恤云云獻神馬

國司守正五位下猪名真人石前進位一階賜絁

十疋綿二十約布三十端鍬四十口

○木馬

〇性理大全　宋孝宗　朱子曰、孝宗是甚次第
英武、劉恭甫奏事便殿、嘗見一馬在殿間不動、疑
之、一日問王公明、公明曰此刻木為之者、上下襆
之服御之、以習據鞍騎射故也

〇耳截　みゝのけすり

〇千加万卓九　高いふの事へ唐士より渡りし馬名也
耳のけすりのこと仰く候子御へ今は帝王の御衣又尤も
大臣より外へ辞顔しく事の外にて今は良家とるかく也
ほうよせりなりしけ於く日本紀〔日〕異の所見ありけり　〇今案也
うけいまはしるく御ならかくしるの事やるの万歳年の山中の
ゆすうとりし日本紀よりとさのかしうちけいは良人
美人貴人などの内に是又仙並所の御くすりとなる人べし

〇馬を聾異よりけり
是京人のかゝるべし龍七耳きこゆるも前まで如何なる物
〇馬ハ耳ニ
いわりき高同しく高のの所に是これは神の障なり

わるく人の高声の時より及けいは出ぬものなりけり
まことを及ふれなし

〇淮南子　古修務訓　馬聾蟲也、而可以通氣志
猶待教而成又況人乎。注聾喩無知也

〇威儀御馬　いかめしきおかれしう也
御馬ハ飾らる飾馬にして唐鞍立しなりし威儀しく後
世式正とのゝいりそ　〇實子威儀

〇太平記巻一南都北嶺行幸の事。参考毛利家本
元徳二年三月末より比叡山え行幸成しく大講堂供養
其後の時の御家君子後いかにも九右近衛
いは衣在厚物なく甚次ては威儀の御馬などもとら
出所よりは内記らく其色も纒外記よりは伯の惠すなり

〇負鈴御馬
負鈴鈴の御ことをいふ

〇同上

斑馬 ふちむま 駮 駁

○古事記上 天照大御神坐忌服屋而令織神御衣之時穿其服屋之頂逆剥天斑馬剥而所堕入

赭白馬

○文選 赭白馬賦 顔延年 ○注李善曰劉音毛詩義疏曰彤白雜毛曰駁彤赤也即赭白也

毛ぶちの馬

○駮 [illegible]

○拾玉集四 黒髪法樂百首 雑 東路や毛ふちの[illegible] [illegible]又いで長毛馬[illegible] [illegible]

翰 しろうま

○文選 策秀才文 王元長 其驪翰改色寅丑殊建 ○注呂延済曰殷人尚白戎事乗翰翰白馬也

尾花あしけ

○堀河院太郎百首 駒迎 逢坂の関のこなたに尾花あし[illegible]

○歌枕名寄 國 [illegible]の駒[illegible] 秋の[illegible] 立[illegible]桐

信[illegible]尾花[illegible]

原の駒

驄馬 まうのうま 日本紀訓

○日本書紀 雄略天皇九年七月壬辰朔河内國言、飛鳥戸郡人田邊史伯孫女者古市郡人書首加龍之妻也、伯孫聞女産兒、往賀聟家而月夜還、於蓬蔂丘誉田陵下 蓬蔂此云伊致寐姑 逢騎赤駿者、其馬時濩略而龍翥、欻聳擢而鴻驚、異體蓬生、殊相逸發、伯孫就視、而心欲之、乃鞭所乗驄馬、齊頭並轡、爾乃赤駿超攄絶於埃塵、驅騖迅於滅没、於是驄馬後、而怠足不可復追、其乗駿者知伯孫所欲、仍停換馬、相辭輙別、伯孫得駿甚歡、驟而入廐、解鞍秣馬、眠之、其明旦赤駿変而為土馬、伯孫心異之、還覓誉田陵、乃見驄馬在於土馬之

[illegible]而代而置所撰土馬

○駒毛変

○枝林拾葉八 ○與六変毛鬣

○雪降鬣 [illegible]

[illegible]

○走木坊毛変 [illegible]

[illegible]

○[illegible] 木綿鬣

[illegible]

紅坊の毛 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○金槐集上建暦二年十二月 [illegible]

[illegible]

○黒鹿毛

[illegible]

○赤馬 赤駁

○日本書紀古雅器紀　駝馬の多くあり　○うけゆ岳
次上　おなじく

○白駝　駝　驝　騾

○西漢書九十四匈奴傳上、冒頓単于精兵三十餘万騎圍高帝於白登七日、漢兵中外不得相救餉匈奴騎、良西方盡白、東方盡駝、北方盡驪、南方盡騂馬。注師古曰、駝青馬也、驪深黑、騂赤馬駝音龍騂音先営反

○駱馬

○淮南子九主述訓　伊尹賢相也而不能与胡人騎駱馬而服騊駼。注黄馬白腹曰駱音元騊駼騎駝馬也、胡人所習、駼音余

○駒駼　○同上

○ものげ　糟毛

○明月記建保六年十二月廿日晴後早参良久、次辛所樹下而参候、乗後中将殿、引出糟毛馬一匹、左兵衛督家恒朴　ものげ　ものげ　ものげ　唐衣

○鶴駿

○明月記建保六年十二月廿日晴、左兵衛督家恒朴、乗馬、上日晴、又所乗馬、仍有手負、仍有手負、仍有手負、引取雑駿馬一疋、所君寄也　○後明月記、鶴毛書不鶴、心とあるべきなり、鶴毛の馬なり　つるつるの物なり　ものげ　月毛　○秋月毛借字　○秋月毛　月毛　鶴毛　桃花馬　○桃花馬　月毛　鶴毛　つるげ　月毛　鶴毛　桃花馬　桃花馬　桃花馬　桃花馬　今の

[illegible]

○白氏文集廿五律　驛路崎嶇況雪寒欲登籃輿
一長歎風光不見桃花驕塵土空留杏葉殘　同
廿三雨晴南園之秋日泥深一尺時老人辛旦出自向欲
何之不是尋醫藥非予送別離素書傳好語絳帳
赴佳期瘦借桃花馬催迎楊柳姬只愁張錄事罰
我性來遲　○拾遺集四　[illegible]百首春　素の約
の月毛の尾ゝ三白毛ゝ花の尾ゝ白毛ゝ
千百首　弱速　頭伴　[illegible]　○坂上是
[illegible]

○黄月毛　[illegible]

○[illegible]記四[illegible]　[illegible]花垣の[illegible]

[illegible]泉殿の[illegible]西[illegible]
月毛[illegible]
[illegible]

○青栗毛　弱[illegible]
○文木物史　青毛　氏松白毛家　新百首　[illegible]
[illegible]　○[illegible]
百重集　○青毛の新全の歌　[illegible]
青毛[illegible]
○白眼鵝毛　[illegible]
式之國造奏神寿詞　白眼鵝毛馬一疋
○白葦毛　[illegible]
○[illegible]月記天福二年八月六日一疋馬栗毛十[illegible]
○迦白惟次[illegible]白葦毛　○今[illegible]白葦毛[illegible]
○白葦毛　[illegible]

[illegible]

○ 太平記、新田義貞[illegible]

[illegible]

要毛[illegible]

○ 少[illegible]記、白毫毛の[illegible]

○ 青鵞の毛[illegible]

[illegible]

○ 青

○ 五河内郡恒条 [illegible]

[illegible]

○ 騧馬 水青 [illegible]

○ 後漢書世七班超傳、超既西先至于寘廣德孔意其疎、且其俗信巫、巫言神怒何故欲向漢、漢使有

有騧馬、急求取以祠我、廣德乃遣使就超請馬。

續僕及華嶠書、騧字並作騧、說文馬淺黑色也音

京媧反

○ 駵 赤馬黑尾

○ 呂覽四孟夏紀曰、天子居明堂左个、乘朱輅駕

赤駵。注、順火德也、駵馬黑尾曰駵

○ 騂騮馬

○ 文選、吳都賦、五大沖、呂王乃帥王輅、軺騂騮

○ 注、劉逵林曰、騂騮馬也、左傳曰、唐成子如楚、有

兩騂騮馬、子常欲之、不与、之年止之、唐人竊馬而

獻子常、子常歸唐侯。○馬融曰、騂騮鳥也、馬似之

○ 班超二毛 [illegible]

○ 五河内郡恒条 [illegible]

[illegible]

十七

○ちぶりの駒

[illegible]と八雲御抄[illegible]

[illegible]

○蜻蛉の紀上[illegible]

[illegible]

集雜二[illegible]

駒[illegible]

○同四秋上八月駒[illegible]人[illegible]

[illegible]遊坂の実の杉[illegible]

雲御抄馬[illegible]

[illegible]

○後撰集十八雜四冬の部[illegible]

[illegible]

[illegible]

○紫斑文蘆毛

[illegible]

○[illegible]連歌[illegible]毛[illegible]

[illegible]

○[illegible]

○清少納言記[illegible]

[illegible]

○[illegible]毛駁[illegible]

○[illegible]河内駒垣集うの[illegible]

[illegible]

鹿毛駁

○[illegible]河内駒垣集[illegible]

[illegible]

西蕃駒近[illegible]相坂の実の杉[illegible]

[illegible]

○つるぶち　夢班

○駁[illegible]夢[illegible]

[illegible]

○[illegible]河内駒垣集[illegible]

[illegible]

[illegible]

○作日馬

○保元年造物語　新井大後、如元威の濃き星白の駿

○黒馬

黒馬高く宝蔵束ねしもの[illegible]

[illegible]今の吉祥家に黒毛なるもの[illegible]

[illegible]大なる青き毛付きの黒馬[illegible]

[illegible]の家[illegible]毛交い黒く[illegible]四足の甲のもろい三尺寸

[illegible]

[illegible]今黒鹿毛黒毛書[illegible]

[illegible]今の[illegible]

○参乃保元年造物語　義朝[illegible]

[illegible]

○梅河流　夜白黄　大木物

[illegible]

名馬

○甲斐黒駒　[illegible]

○日本書紀云大泊瀬幼武天皇雄略十三年九月天皇角星歌、及生惜悔、唱然頻歎曰、我失人哉、乃以赦使、家甲斐黒駒、馳詣刑所止而赦之、用解徽纆○文木物　小笠原[illegible]

[illegible]甲斐の[illegible]

○大宮毛

○今吉物語に、餘吾の軍の合戦[illegible]大宮[illegible]

[illegible]餘吾の[illegible]大宮

○一鹿毛

○同　三　安義物語の[illegible]中御鍬[illegible]一鹿毛[illegible]

○常陸土黒

○明衡往来 彦隆二郎頻雖陸奥於行路訪之為
壮観於彼之人多得彼国
○小栗毛
○同 仗中物物忠 [illegible] 実白及小栗毛
幸与し作気多与毛 [illegible] 師共 [illegible] 行五文字見行
血と種毛
○生嘶 いけどると
○太子記之四帝与獨宮合四の毛海小生嘶の故
○暗
○吳竹夢物語 何度河津助通元後の如 [illegible]
り名与の鵜毛 [illegible] 大傷大小
と尾張毛 [illegible] 刺る地蔵尊の白 [illegible]
鵜る連歌の歌 [illegible] 白雲
[illegible] 紺の子鵜る同し [illegible]
[illegible]

○大鹿毛
○古今与武物語 仁度沙 [illegible] 夜半 [illegible]
大鹿毛と [illegible] 鬼武 [illegible]
[illegible]
○大宮 小鵜毛
○吳竹夢物語 [illegible] 海金反之 [illegible] 雄山の腰切通
[illegible] 振の [illegible]
○ 浅間 [illegible] 仁海 [illegible] 海金反 [illegible]
[illegible] 人と感し合 [illegible] 海金反 [illegible]
[illegible] 大宮 小月毛 [illegible]
[illegible] 連歌の [illegible] 大宮 小鵜毛 [illegible]
[illegible] 時 [illegible] 面白 [illegible]
○大宮
○義経記四 [illegible] 土佐序 [illegible] 宮反 [illegible] 経記

大坂買の諸々より四尺ものの分ならば利度の分ならば
[illegible]大黒と紙名[illegible]

○江岡黒

○武備安民記ニ曰 寛永の条 海[illegible]中[illegible]無忠勝ハ拜
領の後黒江の黒 長八寸の条士卒ハ指揮[illegible]ル而炮
役[illegible]中[illegible]迷[illegible]と以[illegible]ハ[illegible]市浦[illegible]
今[illegible]七[illegible]ル地[illegible]

○白石

○同ニ曰 寛永[illegible]条 [illegible]ハ何[illegible]白石[illegible]
[illegible]

○太夫黒

○義経記ニ曰 吉野[illegible]の私 四[illegible]
[illegible]乃[illegible]ハ[illegible]次[illegible]八島
の合戦[illegible]ハ[illegible]
[illegible]衡[illegible]太夫[illegible]

金[illegible]

○近月 [illegible]

○慶長盛衰記 畠山ハ濃田[illegible]元の[illegible]近の月と
[illegible]黒毛[illegible]

○一戸黒

○清良記曰 [illegible]
一戸二の[illegible]二の戸四戸[illegible]の名[illegible]地名[illegible]民戸
の籍[illegible]江戸[illegible]川戸[illegible]
戸也今[illegible]古[illegible]
部[illegible]今[illegible]戸[illegible]籍[illegible]
[illegible]

○太平記ニ曰 寛永[illegible]
の私 一の[illegible]
山[illegible]今[illegible]

○土佐駒

○諸別珠集記 土佐[illegible]小高[illegible]土佐

○古戦場の道巡りにおゐて
しく以神ありて
足痛山の愛ちし

駒より上是ハその毛のうちにて丹輪上なる所にて也毛のせいの
馬所謂く紋毛は足纏ひ此の毛は脛は小毛の色にて腹
より浮き出たるの小毛ハ前毛に同じものなり馬口喉
後の毛は価あり此れらの毛をしても出来り

甲斐駒

北條の代に甘利清水太郎が所持の大月の毛にて是よりは
昔甲斐国の或る侍人清水上野介ハ小田原の北條家の譜代の侍
にて八州に名馬の名高き武士なりその頃の男子一人清水
太郎は後の甲斐の母の名にて此の大月の名馬をたて武
將太郎が後甲斐の甲斐駒と名付けし一きハ大月の一年
冬は要害なる城の下に居り名の内より出でしハ中旬
七人衆にて軍功ありて鞍置に乗りて太郎は此馬に乗りて
和泉殿より上りて将の股を出して血は此に止めしにて候

岩手鶴毛

同じく清水太郎が所持の岩手鶴毛と云

しく強きは得たり尾髪あくまで長く綿毛九十あまりにして強きし
甚久保の鶯巣の願いハ上道の宝物なりけるは此の馬にて
甲冑を着し着付し脚の如く甚久保は家の鶯巣と目
付け数年も騎乗して走り行く馳せの様なる道かの鶯八重
羽の雑毛あるし丹の羽の如し鶯巣の羽上の
上の息つきて前利長久保の家にして伝ふ
くるる名なり

宮城

今昔物語廿八巻の宮城の名の
ありける葦毛は文殊より三つ名の
りて葦毛の具足の一番
にて押合て家
組く甘正侍文殊の地
同じく宮城の名ありて
呂は葦毛にて時

[illegible]

○御厨　[illegible]

○北條五代記に云、治門軍の条、作る所四方四騎御厨と
[illegible]
[illegible]
江國の住人佐々木四郎左衛尉泰綱の子治門の先陣
[illegible]
[illegible]

○弓井宗

○多胡河名七

○北條五代記に北條氏並に作行義宣合戦山上之屋敷
[illegible]

[illegible]

○吠英

○北條氏政、大也入道功居条　永禄七年甲子の月八の日、
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○朝倉栗七

○海井之城記に海井伯耆守宗俊朝倉宗[illegible]卯年度野西
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○ 信濃国

○ 信濃国[illegible]九小笠合戦[illegible]

[illegible]

○ 利の[illegible]

○ 武徳編年集成[illegible]元亀元庚午年四月廿[illegible]

[illegible]

○ 鬼駱

○ 同九 永禄十丁年甲辰六月信玄[illegible]

[illegible]田信長[illegible]

[illegible]

○ 嵐郷

○ 同 [illegible]

[illegible]

○ 笹弘 [illegible]

○ 同 永禄四辛酉年[illegible]月信州の[illegible]小笠原大膳大夫長[illegible]

[illegible]

[illegible]

○馬式

○後漢書廿四馬援傳援好善廉善別名馬於交
阯得駱越銅鼓乃鑄為馬式還上之因表曰夫行
天莫如龍行地莫如馬馬者甲兵之本國之大用
安寧則以別尊卑之序有變則以濟遠近之難昔
騏驥一日千里伯樂是之照然不惑近世有西河
子輿亦明相法子輿傳西河儀長孺長孺傳茂陵
丁君都君都傳成紀楊子河臣援嘗師事子河受
相馬骨法考之行事輒有驗効臣愚以為傳角不
如親見視景不如察形今欲形之於生馬則骨法
難備具又不可傳之於後孝武皇帝之時善相馬
者東門京（東門姓也京名也）乾鬻班門外則更名魯班門曰金馬門臣謹依儀
氏鞫中梟氏口齒謝氏脣鬢丁氏身中備此類家
骨相以為法馬高七尺三寸圍四尺四寸有記置
於宣德殿以為名馬式焉○注式法也○史記平
準書曰以為在天莫如龍在地莫如馬○援銅馬
相法曰水火欲分明水火在鼻兩孔間也上脣欲
急而方口中欲紅而有光此馬千里頷下欲深下
脣欲緩牙欲前向牙去齒一寸則四百里牙銳鋒
則千里目欲滿而澤腹欲充腰欲小奚助欲長懸（縣）
薄欲厚而緩縣薄股也腹下欲平滿汗溝欲深而
長膝本欲起肘腋欲開膝欲方蹄欲圓之寸堅如
石

○伯樂相馬

○淮南子主道應訓秦繆公謂伯樂曰子之年
長矣子姓有可使求馬者乎對曰良馬者可以形
容筋骨相也相天下之馬者若滅若失若亡焉一
若此馬者絕塵彈轍臣之子皆下材也可告以良
馬而不可告以天下之馬臣有所与供僭煙采薪

者九方堙、此其於馬非臣之也、請見之穆公見之
使之使馬、三月而反、報曰已得馬矣、在於沙丘穆
公曰何馬也對曰牡而黃使人往取之牝而驪穆
公不說召伯樂而問之曰敗矣子之所使求者毛
物牝牡弗能知、又何馬之能知、伯樂喟然大息曰、
一至此乎是乃其所以千万臣而無數者也、若堙
之所觀者天機也、得其精而忘其粗、在內而忘其
外、見其所見而不見其所不見、視其所視而遺其
所不視、若彼之所相者、乃有貴于馬者、馬至而累
千里之馬

○伯樂

○莊子曰馬蹄、馬蹄可以踐霜雪、毛可以禦風寒
齕草飲水翹足而陸、此馬之真性也、雖有義臺路
寢無所用之、及伯樂伯樂曰、我善治馬、燒之剔之、
刻之雒之連之以羈馬、編之以阜栈、馬之死者十
二三矣。音義樂音洛伯樂姓孫名陽、善馭馬、石
氏星經云、伯樂天星名主典天馬、孫陽善馭、故以
為名

○造父伯樂

○淮南子云俶眞訓、奚仲不能為蓬蒙、造父不能
為伯樂。注造父善御馬事周穆王、伯樂善相馬
事秦繆王

○馬師皇　之皇の時世の醫師なり

○輟畊錄曰唐八醫師名

○馬醫

○莊子曰馬蹄及至伯樂、曰我善治馬、燒之剔之
刻之雒之連之以羈馬編之以阜栈、馬之死者十
二三矣。音義剔勑歷反字林云剔也、徐待亦反
向崔本作鬄向音勑、雒之音洛、司馬云燒謂燒鐵
以爍之、剔謂翦其毛、刻謂削其甲、雒謂羈雒其頭

[illegible]

○相馬

癸辛雜識前集韃靼相馬之法馬之壯者眼光炤人見全身中年者炤人見半身老者炤人僅見面耳

○老馬知路

卧游漫録畫別名田直一軍師論兵且道昔者齊桓伐孤竹春往秋還迷歸路管仲令放老馬隨之得歸路余問出何書其人悶然無知此春秋後語且曰夜失道以北斗建為正以四時定之則知方之路如本路則放老馬以後此又不可不知焉

○今案管仲老馬之路[illegible]韓非[illegible]

○馬体名

○酉陽雜俎毛篇馬体名有輸鼠外鬼鳥頭龍翅虎口

○韓馬

白氏文集艺送呂漳州律今朝一盞酒吾送漳州收半自要同遊愛花憐草緑花前下韓馬草上攜孫竹

○馬韉五種

馬五種調伏

維摩經八香積佛品十以難化之人心如捩猴故以若干種法制御其心乃可調伏譬如象馬懼憂不調加諸楚毒乃至徹骨然後調伏○注什曰馬有五種第一見鞭影即調伏第二得鞭乃伏第三見鞭影即調伏第四穿肌乃伏第五徹骨乃伏

○言臺朱[illegible]
[illegible]
○白氏文集廿六 何處春深好春深學士家學書裁五色馬鬣剪之花蠟炬角明火銀臺賜物車相逢不敢揖伏地帽低斜 ○何処春深好春深御史家紫綬馬尾蹄繞繡衣花[illegible]

○尾髮

○拾玉集四 [illegible]

○法隆髮

○今昔物語 [illegible]

○馬齒

○呂覽大審應覽 [illegible] 荆莊國莊伯令其父視日日在天視其奚如曰正圓視其時日当今令竭者駕曰無馬令治人取冠進上問馬齒圉人曰齒十二五牙三十人有任臣不亡者臣亡莊伯決之任者無罪 ○注馬上下齒十二牙上下十八合為三十

○馬孕生月存

○淮南子四地形訓 凡人民禽獸万物夏衆各有以生或奇或偶或飛或走莫知其情唯知通道者能原之 ○又一地二人三三而九九九八十一一主日日數十十紀甲日主人人故十月而生八九七十二二主偶偶以承奇奇主辰辰主月月主馬馬故十二月而生

○馬の毛性

○安[illegible]武天皇 [illegible]

廿八

宇廟には毫剤とかくのごとく和漢ともに大かたハ毛を以せたり
とあるのみにて其見えざりし又人々各木火土金水の性をわけ
つけたる依りて其人によりて相生もしくハ相剋とも
ありあはせたるの行ハれたるの外性か知りたれハ毛の名をあらためたれ
しるしハ叶ハぬことにて今もその外性か知りたれハ毛を多くあらためたれ
しかれハ何の沙汰にも知つべし故に其事を失ひ何となくして五行
に配当せしものなり然るに古来の説なきにしもあらねハ其の内にも大同
小異あるによりて明かならざりしを寛永年中黒沢宗章の考へ
たるを此の驪支物色図に毛色馬経を合せてかぞへたる支義
をもし手引のために書き集めし粗全体にわたるとし一くに考へ
称する此の書に依りて驪支物色図を補ふ是もそのうちたりし
これを考へて以て一有する氏倫の見る所を又もし此氏倫かく
考るに依りて之を取りて今ハ世俗に五性十毛と
いふもの也然るに依りて今も甚だ達人の此の類
をも行ひ論ずる事なし又性の毛色を分つ事ハなく又五行の説は

形をわけ数をしつらへ給ひしより十毛といふなり先大かた五行の木
火土金水とに各其兄弟をもて合せて後其方を振りへする
ものならぬものはなし就て木ハ青、火ハ赤、土ハ黄、金ハ白、水ハ
毛水は目の色によりてわかつ又尺毛は性に干ハ
鹿水性とす栗毛火性とす鹿毛土性とす鴾毛た
月毛ハ金性とす河原毛も是に水性とすへし
おいて其性ハ十二毛をしりける板抜て而して驪支物の図
に油(カスケ)毛を土性とす入れ其性を加へ二十有余の字画
の用捨をなすの皆明らかなりと土性の糟毛
の水性の白眼を加へ一糟毛を作目ハ
りつけの毛を多くしてある故何毛粕毛何毛の
此の毛又の白きハ毛のあるもしりとも毛の類ハ又毛いろ
幸いに依りてあるか何かしハ粕毛としても作りといへとも
其と其の依りて其性を分つ事の毛多くして定めへき
なれハ水性の粕毛なり火性の粕毛しあれハ土金水

性の物色心[illegible]

[illegible]記[illegible]

[illegible]秋冬[illegible]中央の土用[illegible]孟春[illegible]月天子駕蒼龍孟夏之月駕赤騮

中央土駕黄騮孟秋駕白駱孟冬之月駕鐵驪是

[illegible]礼記月令ノ春夏

○依人生性可用事

○足明衡傳集 凡章色[illegible]花色木性[illegible] 廣色

要色火性[illegible] 殿色殺土性[illegible] 鶴色作目皆色

金性[illegible] 鴉色黑水性[illegible] 俱自要別用伊勢[illegible]

[illegible]

○将軍不騎白馬事

○淮南子[illegible]說山訓 故人之情、於利之中、則爭取火焉、於害之中、則爭取小焉、將軍不敢騎白馬、亡者不敢夜揭炬、保者不畜噬狗。注為所見識、一說白毛服、故不敢騎也、傳曰晉襄公与姜戎矢黑衰敗秦師於殽、言喪変凶服也、故不敢騎白馬也。亡逃亡也。保城郭居也、保饒人也、不敢畜噬人狗也、[illegible]

○廐ノ猿ヲ[illegible]事

○稗海 晉趙固之馬病、郭璞見之曰、使獼猴相馴、之病愈、於是遣環之言、果馬病愈 東見記下載之

○猿ヲ馬ノ守ニ[illegible]

○[illegible]物叔事要決 猿ヲ[illegible]山ニ[illegible]山ニ[illegible]父子の義[illegible]

如何 猿ヲ山父ヲ[illegible]但馬櫪神ニ[illegible]廐の北在ル[illegible]

以[illegible]

形像ヲ[illegible]猿ヲ[illegible]鶴ヲ[illegible]

きく二千里に鍛たれ行しめたまふ宋朝にハ是にたるの守すり
ととし化神の鉛ったにたるれ行もたりにそ用ったりや櫪ハ云三
いるし伝もか馬察式云以櫪一艘宛馬二疋ととくへ
うるかなかるに使こし常の夜槽宮まらるかなるとも櫪ハ
二つ乃通をもえたる也

相馬

一名の目利 うるのめきき

宗象武久路下 寿俊云一名の相ととくるの和譲ん
もよき足たあるとして諸手のかるるハ書きくるもりの大及けたと
我朝ニて一名の相とくる者の書も見えずしかれハ之代の録
子坂上大宿祢貞守善相鷹馬允能驚駿之骨夜
所生之地一無違ととなへるへのに今代も皆人
おもふとしるその仍能身す二つのさん扶つし
古と今とハ何違れのなき也後の人の一名形にあらる證ゆ
云角の一名形も仍もよ及男与ゆへとき其ゆ文僧生
そりのそのゆる遠でいあたらや只千里にも行一名の云相とる
すらく得るまくるまへし千里の一名といへハ宇早走めるのなる
了したとて漢の文帝の時千里の一名を献しけれとも一名早
走云角のるよりの鋼に尤も我朝もいるくりの早走に好きへし早
足ハ段の云文ハ七段の一名をすくへて換へる足をかしと
く云形を見るなるおかもかりてたへ… 手に一名見様も書き変く
見る故物の伎る様の極ゆる足析て其やかまとしるのかに行のり
数段のりしなるに今治年(?)の代々をれに己一通り
なくるミるにゆいに面白くるとうかり何ん云(?)無のあるかりしまかとや太
平すいハ乱かにる(?)此ハ太平ひるしまの乃数…武士ハ
し昔ハ我敵の名一名のあるめの時代ハ一名の内の和平にいりつと
一して出進退みしくも力伝をのぞく其とも利害得
失をいるいま人目利と人ありし享保の比ハ早足ぬ云とく
いるへとかへ将軍家の御厩にもり及けて世上りやむ見端
にる己力伝息伝かりうへのうわる代々牽(?)牧の云
すハ焼る後云名付くりを勢気(?)系安盛それの勢のり貴わを

是を募りて後にいたりて遠き方まてもおよひけりしとそ

○西土より馬を貢せしなり

○日本紀 應神天皇の御時に百済国より良馬二疋を貢す

しかれハ御馬のはしめなるへし

○上古よりの来初なり

○安多武久路 日本紀 景行天皇の御子日本武尊東

夷征伐の御時妖賊山川に入りて山にかくれ谷に幽れなと云

坂東へ出ていかにしてもすてに臨ませ給ふ事ありけるに

是をもってハ是より人王十六代應神天皇の御代良馬献上

有りて駒を銅に並へて御覧ありしにそのうへ是も具足

廿二代雄略天皇秋七月田邊史伯孫と云者誉田陵の下

にて赤駿馬に乗りたるものに逢ひけるにそれより是の

遅速ありて廿九代天智天皇の七年に始めて多く牧

を置き馬を飼ひけるよしなり又四十代

天武天皇十三年の詔に文武官の諸人務て兵仗用ひ

馬を習ふへきよしなれハ馬を飼ひ乗るへしと詔あり歩

卒としてハ兵仗を帯し馬を習ふへきとなり是より

文武官ともに馬を飼ひ乗ることを専らとなし

是より武士の専用となりて軍旅にもちひし武器

の要となし武士の宝となりしなりそれより萬般仕官の

令にもしるし又唐にては単騎にて一騎前の武者を鞍載と

云ひ我朝にても同しく調の末に国の内より始めしを貢とハ

我国にてハ人皇六十代の頃より有りけり

○御陪

○安多武久路上 享保年中阿蘭陀人の差上御車といふ物を

公方様へ奉りしに公より其後安盤に命して駆

させ人馬ともに同しく是次に行ひ是のみは我朝のことく

調習し其のちにて安盤上意にて次に車に仕立て足次

せしに遠く車に係りて安盤御者と成りて御庭より外

に出て所の宗を是次第にして遠く乗りけりし

○馬ニ[illegible]病[illegible]

○安永武又路下或人問云[illegible]煙[illegible]
[illegible]や寿後答云平考[illegible]
[illegible]結[illegible]大腸の病[illegible]
大腸の脈を大行[illegible]
南方し十[illegible]丙丁[illegible]十二支[illegible]
[illegible]馬は南方丙丁の石火[illegible]
[illegible]又離卦の象[illegible]
結[illegible]
寒異の[illegible]
[illegible]石糞通[illegible]
[illegible]外邪[illegible]
[illegible]四時不[illegible]
[illegible]
[illegible]鼠の脈[illegible]肺の脈[illegible]大腸の脈

外邪が[illegible]
病後[illegible]
[illegible]手掌[illegible]東風[illegible]
脈脈の[illegible]病[illegible]
[illegible]結[illegible]
[illegible]病[illegible]
東風の[illegible]西風の[illegible]
[illegible]
西南の[illegible]又[illegible]
[illegible]盛衰記[illegible]
[illegible]
故脾胃[illegible]
[illegible]結[illegible]故[illegible]

○馬長 [illegible]

武参部 3

○老い十列[illegible]
[illegible]奉納[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

○毛色番　けづゝ　けづゝ

○義經記四　義經奥州の御ゆき　馬京國の住人

[illegible]

○馬揃

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○馬[illegible]

○古[illegible]

[illegible]

○晴嵐四　記中　辛崎後の松　いまもいとけなき[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○馬丈[illegible]

○万物故事要決又　一寸二寸[illegible]何も定[illegible]

[illegible]

駒とは是曲尺の八寸四尺二寸とかいふて四の音
世高級なる物なり又毛詩の注に曰馬又五尺
以下曰駒とあり是に周の尺と漢の尺と以上曰馬
とあり周の一尺は曲尺八寸二分
以上は駒なりとあり漢の尺は曲尺八寸の
曲尺なり

○馬毛同異図

鈞命ありて驊騮黄物名を書かしめ　黒澤木工
助の図をもて　探幽の画をもて　狩野
山雪の図をもて　活所遺稿をもて
又諸家を採り引て其説を作す

○活所遺稿捲書馬毛同異図　自古傳言、毛色
有二十三之異然其名与図、并不傳矣、狩野山雪
文人、今代之畫師也、惜其愈久而愈失、亭向詳辨
以畫此図、而教子孫、予嘉文人志之專也、業之勤
也、有慈于貽厥無於錢穀、題以馬毛同異図眞博
古之一事也、覧者何為

○馬毛引牽の由来

○安房武久能下或人云、引と牽との二義の
同　寿俊答云、凡馬の口を取て上牽と下牽の
両様あり　乃ち引と牽の二義なり
其場合は口を取て上牽　馬に上輦の去のとき
馬の前に又上手に引手あり　左右の口を取て支柱
上手に横に上輦の去のとき　引手に次に追縄
常に馬の尾に　馬追冠
りて馬の口取馬の口を取て牽行
引手とり引手とり引と字
分て異し引と牽と
馬の後に引と古い云り物名、賞賜
作る物の場合口を取て引を

しと切論書ふれとも人の事を深く攻むる者と見えたり

縄にかけて預勘としるす ○今案ずるに引牽の事からうして

引なり又ハ和訓には文字を引と云ふ事なり何れもしかる

へし漢字の法は引牽と云ふのかはる事なしかるに其れ

引といふものなり縄にかけて引くの縄なり 引縄の事也

なる事と僕せ奉りよりて引くる縄を給ふて文字の所々

らかなるをりからこの牽牛をも又引の字ハ牽と云ひ

々文字に牛を添へて引寄せると云へり牽といふ字ハ引道て

以下弓を使ひて獣を射る所を用ひらるとなるし

○

強弱馬乗の事

○北條文治記云 鎌倉能登守入道なる者の強弱事

秀康とて人より馬の助と名のる 秀康と申せる

実朝の侍にて弓上手にて遠侍より少年のとき弓に好を

つくしと鎌倉にて実朝侍者なりける強弓一つ引かるを

好ましく唯自身も付けたる弓を見つけると試み見え

○

馬場

○拾芥集四日吉法楽 相模弓場

川文字保反秀康助とも一弓祗候の由聞えしと越学

山もとの跡まで大旗や大手のつとめる弓をのまし人にて不是

なるべし とよく言ひ弓のつかひのつよく弓を好む心を見て弓

まいのらくく弓を射るに思ひまかせよと 早業兵の廿一ヶ

條の内に弓いふ地には遠矢に弓を射て内の手綱を誓ひ

七十の上弓に ばよく名を得る弓の名をもとらる 一代の名誉

仮初の弓あまたをし名利の心ある ば弓を好む大将より

とりて弓の中をもとる的に弓を手放の弓馬の所作をかし

人を指南しけるとし

○

拾芥集四日吉法楽

川らの外なる人のうちなれば弓より目をいで北條の馬場

る手鎌人の弓をつけ射る一弓は洞馬より外は弓場と云

○吾妻の武久塚上二弓場の

てみ馬弓にいりて人をとらぬ寿俊卷四射場の音より名目

のもりを左右近侍の弓場とさへる 忠て昔より

卌七

考ふれハ古式とも見ゆ卑居(?)なるよりも弓箭も式に叶ふ
しかれハ是等をも断て論なき事の説ハ弓箭稽古の為をも立て入れ
ことに相広の弓場とも云ハ四方同じ様の的なり
ものを定めたりしかり東海の見るに臨て享保の比
相広の弓場にハ松柏の東の垂とのへ法士の弓の藝
稽古の場所にもあるなり其場の内に一而之地すく
様の射場といふハ古より二所并揃の広さハ四丈又
くり是ハ足場也[illegible]扇形
ことく又弱癖ある弓の[illegible]足次とし洞射とる
場ハ左右六十間より二三百間也是ハ矢國[illegible]
洞馬路とも[illegible]扱又流鏑馬笠懸の式の作
いふ埒の左右に埒の式ハ穀(?)[illegible]
又雖[illegible]弓場ハ埒の式ハ標とて[illegible]
木を植る是ハ下木とも云ハ十町の場を式ハ所見
是ハ騎射の[illegible]法量ハ[illegible]

於同本丹四日吉係[illegible]

○埒

又廾埒ハ相広の是地を埒ハ二ケ所ありて四方に埒あり
又あつちの弓場ハ四所二所の内に大縄小縄とて
張る縄を四方に埒を立るの外垂ね[illegible]及ひと
也ラチと云ふ[illegible]埒[illegible]
らち
○安多武久路上 寿(?)[illegible]埒所の法量を定むる
[illegible]今の小土手と云[illegible]則埒といふ
[illegible]小土手ある場ハ垣ハ結て[illegible]小土手ハ埒
[illegible]小土手[illegible]の[illegible]ハ垣ハ結て埒といふ
今の俗[illegible]小土手ある[illegible]垣を
結[illegible]唐土にて垣の[illegible]
の[illegible]埒[illegible]と云べし ○久選 赭白馬賦 韻延年
分馳廻場角壯永埒 ○晋王濟馬埒謂於外作
短垣繞之也 又埒小堤也 又封道曰埒 ○淮南子
道有埒形 ○廣韻 埒還也 堤也 ○字彙 埒卑

垣也

○こうり　鑿決　疏

○こうり　溝の如くにして水の行

[illegible]

[illegible]

白氏文集廿八　鑿渠明月

峽決破白頭溪　鑿決　訓

又因下疏馬沼と見て　訓

此外に又選に蹄涔と見て　馬蹄の涔

水　もしまた[illegible]

[illegible]

[illegible]

水の涔と韓人の[illegible]　仮名

こうりぶね

○桟

文選　横白馬　嶺　張平歳老気彈　鑿内桟。

注李善曰、説文曰桟棚也、呂氏春秋曰、取之内阜

而著之内阜、莊子伯楽曰、我善治馬、編之以阜桟、

司馬彪曰桟若櫻狀、施之濕地也、呂尚曰桟以枝

禦濕而承馬足也

○馬柵　うまがき

○うまがきの[illegible]

小垣　[illegible]

或人云、垣[illegible]柵也　[illegible]

[illegible]　小垣　[illegible]

○下黄集廿四　天皇賜海上女王御歌一首

赤駒之越馬柵乃減結師、妹情者疑乍奈思　右

今案此歌擬古之作也、但以往當便賜此歌欲

○馬蘭　うまらの[illegible]

[illegible]　蘭い柵と同じ[illegible]

後漢書七十五　東夷傳、夫餘國侍郎曰、前見天上

有気大如鷄子来降我国、以有身、王因之後遂生

男、王令置於豕牢、豕以口気嘘之不死、復徙於馬

蘭馬亦如之。注蘭即攔也

繫馬

毛詩周頌有客章言授之絷以繫其馬

走馬

前漢書　張敞傳　走馬章臺街

俗云馬見所

戲馬臺

文選　九日從宋公戲馬臺集送孔令詩謝宣遠。注李善曰蕭子顯齊書曰宋武帝為宋公在彭城九日出頃羽戲馬臺至今相承以為舊準

戲馬觀

古今原始九後趙置戲馬觀觀上安詔書用五紙衙于木鳳口而後頒之

屬弦

○馬の人を蹴じ

○馬の人を蹴じ

○馬の人を蹴じ

類聚名物考巻之

武藝部　十六

馬具

鞍

古事記上大穴牟遲神の物語の始

前略

笠を久良と訓む鞍も

久良は神代紀に

久良は神代紀に

古事記上大穴牟遲神の物語の始

前略

笠を久良と訓む鞍も

[illegible]

○安多武久路上 上畧 寺後ニ輝[illegible]ト云[illegible]ハ天神の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ上古ハ[illegible]ハ[illegible]ハ久良と
云しし屋の家久良とよみ則[illegible]ハ[illegible]
但神代の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
天神の[illegible]時[illegible]ハ[illegible]
[illegible]漢土の[illegible]
[illegible]
漢土の[illegible]ハ[illegible]
切付上[illegible]
云[illegible]
寺家集み[illegible]
[illegible]

[illegible]家[illegible]
[illegible]
[illegible]

又地名ヲ[illegible]知ベシ

○鞍鐙相應ス[illegible]

○一海ヲ一[illegible]ヲ[illegible]　一海ヲ一[illegible]　一海ヲ一[illegible]　一海ヲ一[illegible]

右ハ[illegible]家ニ[illegible]

○鞍板

○明月記

[illegible]三疋放[illegible]鞍[illegible]骨英代

鞍[illegible]皮切付[illegible]人色韋泥障白差端清表支

在表服茅鏡瀬已水鐙[illegible]代紺子緋服茅鹿皮鞍後[illegible]

鞍[illegible]一疋鹿毛[illegible]鞍[illegible]骨[illegible]物貝[illegible]色韋表支

[illegible]皮切付[illegible]行勝[illegible]河曝毛泥障差端[illegible]瀬已水敷

金鐙[illegible]鞍白[illegible]紺子緋服帯虎皮鞍後○同

天福二年七月[illegible]涼[illegible]青侍[illegible]鞍大[illegible]

螺鈿[illegible]黒鞍押紙鐙[illegible]多子緋[illegible]

[illegible]

[illegible]

乙未七月六日夜、自平江帰、泊舟城西柵出方
撥蓬露坐、忽見一星大如柘碗、色白而微青、尾
長四五丈、光燄燭天、戛然有聲、由東北方飛入
月中而止、此時月如仰尾正乗之、無偏倚、若人
以手拾置其中者、[illegible]仰尾[illegible]

○慈恩傳巻一法師乃竊入長安、時發西方日、
有術人阿弥達者、誦咒占観多有所中、法師令占
行事、達曰師得去、狀似乘一赤毛瘦馬、傍鞍橋前
有鐵[illegible]○[illegible]

○鞍の居木　一云ゆら

○安多の武久浩上、或人鞍の由木まさい居木なりの名目
[illegible]軍[illegible]中畧四方の俗[illegible]鞍橋一鞍
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]根飾物ノ唐轡橋螺鈿
[illegible]嘉保二年四月廿七日江弘[illegible]英作ノ自此発出
[illegible]轡ノ伝説 [illegible]
[illegible]ユキイキ[illegible]
[illegible]ユキ[illegible]
[illegible]轡橋ヲイキ[illegible]ユギ[illegible]
[illegible]伊勢長風一人ハユキ又ハイキ[illegible]
[illegible]北戦書傳永傳
云永氣幹巻曹過人、能手執轡橋倒立馳驟[illegible]
[illegible]朝鮮有リ戯[illegible]逆立[illegible]
左右の手ノ轡の前輪の[illegible]輪の山の孔内胸
[illegible]
轡橋ヲ執[illegible]倒立[illegible]前輪[illegible]立キ
[illegible]根武備志ノ轡の孔ヲ橋ト云[illegible]是
ハ日本紀延喜式ノ飾物ヲ橋ト[illegible]同シ[illegible]
[illegible]従是考ヘ[illegible]和漢ともに轡橋ハ[illegible]の形後の

輪のもし[illegible]ユキイキの[illegible]

○轡の手形

○安多武久佐中或人ノ轡ノ手形ノ[illegible]
平治の物語中巻軍器[illegible]
[illegible]
形[illegible]
[illegible]上古の轡ノ手形[illegible]
[illegible]
[illegible]手形[illegible]
[illegible]
[illegible]武士の轡ノ手形
切[illegible]又軍器[illegible]
[illegible]
天[illegible]轡ノ手形[illegible]切[illegible]
[illegible]又[illegible]切[illegible]

五

[illegible]

○鞍覆

○安元弐久路下或人云帋(カミ)の[illegible]云當時國
守の[illegible]虎皮の鞍覆[illegible]許[illegible]
[illegible]寿後参[illegible]
[illegible]延喜或云元大臣已上覆鞍者用御鑒云又
飾物[illegible]卒又移鞍覆[illegible]見打覆云雖無[illegible]桃華
菜葉[illegible]鞍打鞍覆[illegible]
中[illegible]崩本後[illegible]又足利家の比大諸礼
[illegible]方様[illegible]牽[illegible]の鞍覆[illegible]大名[illegible]毛氈常の人[illegible]
[illegible]の皮[illegible]
[illegible]家[illegible]
鎌倉殿の鞍覆[illegible]金襴[illegible]用[illegible]錦綾[illegible]毛氈
[illegible]人[illegible]皮張の鞍[illegible]
[illegible]又京都[illegible]家[illegible]
[illegible]

植[illegible]孝景[illegible]毛氈の鞍覆[illegible]
[illegible]許[illegible]又或人問云軍[illegible]の皮[illegible]
[illegible]寿後参[illegible]
大双紙[illegible]泥[illegible]
家[illegible]
[illegible]許[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○明月記建暦元年七月廿[illegible]水[illegible]鞍[illegible]
及切付彫[illegible]塗泥障[illegible]鹿皮鞍覆[illegible]
縄○同天福二年七月廿[illegible]涼[illegible]鞍[illegible]
[illegible]帝[illegible]螺鈿[illegible]皇鞍[illegible]
[illegible]同鞍覆[illegible]押紙[illegible]
[illegible]

○鞍の上[illegible]

○藤原清正集[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

延喜式飾抹桃李葉菓抹引墓とあり鞍とあり
上鞍のりとあり弓馬鐙のりなり 寿俊答ヲ鞍鞍と
いふ鞍の字諸說多くの弁
考へるに延喜式にも和名抄に鞍鞍と
見えたり鞍褥とあり今の
の鞍鞍とあり作れる名なり鞍鞍とあり
なり鞍の字和名抄に毛席の名とあり字書
に鐙褥に又結也とあり
ちがい鞍鞍に新しく考へるに
縁ある物に用ひ又金文堅食物なり
ちがい角世に用ひる角の把ヲ鐙に古の鞍褥の造製なり
〇鞍褥とあり延喜式にも鞍具まさに鞍の具
四又ちがいに立ちがい立ちがい
ちがいの行者に云ふ具
走ヲちがい用ひるものと見えたり物音は軍旅に

又用ひるものとし軍初張曾ちがい又今の板ヲ鐙と
いふ古の軍旅に鞍の具なり近世の製古の製に比
大小の違ひあり古ヲ修ヲ見るに唐世の物とし
大きなりて鈴皮又いつとく人皮とのやうに画とし中に上
の名ヲ小笠原殿の記の中に大唐の笠懸軍陣の所
用幸りす法ヲ定めるに鞍の上あり高人の座ヲ定める
より見るに軍旅に作る軍旅の鞍具の上あり是ヲ
用ひる鞍の上あるものの名ちがい或ヲ
へるなり

○發鞍 ちがいかりと

○鞍軍ヲ先人ヲ鳥ヲ
ちがいかりとの文字より御ハかりとして下鞍ハまち
より

○後漢書 ちがい 袁紹傳紹在後十數里用瓊已破
發鞍息馬唯□帳下強弩數十張○文選 技風
歌劉越石繫馬長松下發鞍高岳頭○注發去也

○作之鞍　鐙

○安房武久改中作鞍の事

寿俊書云りけるは伊野守貞徳と申
し奉り鞍作りし大坪入道
なしりの貞徳いまだ利慶作
氏なり貞徳三年まいりて
嘉元三年より出仕人なり大坪の道りの氏の人なり北
入道りの作年代是書りし
秀とかきもの慶長の初細川家の御書に自筆に
馬書大坪入道馬方作
畠山中務大輔細川右京大夫
伊勢名字の人なりして畠山の政光細川と勝元
なりしとしたる長永の氏人なりて当代の義政の
御作出たりし又大坪入道八十四歳人月十八日
出家なりし故又鞍金右京政之作は鞍作の業は大坪

入道は文安五年上洛
以伊勢守貞宗畠山中務
四人鞍の曲尺相作
のり切れ上田宣秀筆
らい貞徳ゆ
八十四歳
十年
伊勢家の
貞徳を
鞍の曲尺の切
馬書
大坪の切
馬書
大坪

○りし鞍

○空穂物語　作上巻

物語の一部に銀の
山の

八

[illegible]

○今の男[illegible]

馬[illegible]故[illegible]後の綸の中[illegible]

[illegible]今の荷舞[illegible]

[illegible]舞[illegible]

後の綸し人の[illegible]料[illegible]

[illegible]舞[illegible]世[illegible]舞[illegible]同[illegible]舞の中

[illegible]舞[illegible]

[illegible]結舞[illegible]舞[illegible]

[illegible]燈[illegible]酒[illegible]

の家[illegible]舞[illegible]今の小荷[illegible]馬の舞の[illegible]

[illegible]

○今昔物語十一種合の[illegible]

[illegible]結舞[illegible]

○[illegible]

○[illegible]人[illegible]古[illegible]舞[illegible]

○[illegible]

[illegible]前度の[illegible]中[illegible]

[illegible]小[illegible]家の[illegible]移舞

[illegible]以[illegible]

移[illegible]同一[illegible]後[illegible]移舞[illegible]

[illegible]舞[illegible]

の結舞[illegible]

○[illegible]

○義經記一合那[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今打しの法にまさる[illegible]の剣をもつて[illegible]
鞆屋の曽と今のこと曽蒲の指物[illegible]
くまもとの城を宋柳の長刀かつぐ四方の
軍に自然の[illegible]

○金具指鞆　[illegible]

鞆とは今銀毒洞者の拵[illegible]
[illegible]螺鈿[illegible]今世の[illegible]
細六印地[illegible]
[illegible]今銀[illegible]

○[illegible]

○太平記六関東大将上洛の[illegible]
の[illegible]一の[illegible]
捨り舟[illegible]

○唐鞆　[illegible]

鞆[illegible]

○是は西土の製[illegible]

○[illegible]本朱[illegible]花家紋[illegible]
故[illegible]

○貝鞆　[illegible]螺鈿鞆

○安[illegible]武[illegible]
[illegible]螺鈿の鞆[illegible]
[illegible]寿後[illegible]
螺鈿の鞆[illegible]
螺鈿玉篇[illegible]螺十[illegible]
集成[illegible]鈿寶貝[illegible]
[illegible]

○[illegible]唐鞆[illegible]
[illegible]

十

[illegible]

○杏葉毎

胡力劒のごとき[illegible]飾[illegible]甲
[illegible]杏樹の[illegible]似たり
[illegible]付[illegible]
杏に和[illegible]

○白氏文集廿五出使在途所騎馬死改乘眉鞏將
帰長安偶詠旅懐寄太原李相公伴驛路崎嶇況
雪寒欲登盤鞏一長歎風光不見桃花騎塵土空
留杏葉毎

○移毎　うつりごま

○安多武久路中移毎[illegible]

軍器[illegible]

[illegible]

移毎[illegible]

[illegible]

[illegible]

○大和報　[illegible]

[illegible]

○明月記建久十年二月廿二日春日社[illegible]未[illegible]行

[illegible]

○或人云唐船[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○勅使記一金[illegible]

[illegible]

○明月記天福二年七月廿二日中[illegible]行金[illegible]殿[illegible]

涼岡海[illegible]記[illegible]多伏[illegible]地新[illegible]大夫[illegible]用尉[illegible]

○飾物

十二

新[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

保元元年十二月十九日所方違行幸[illegible]記云舞縁細
或伝懸地也○保元物語　海道[illegible]地今義輪の舞
○源平盛衰記　花　大木丹四花　[illegible]
[illegible]庭の[illegible]
[illegible]○後明[illegible]
[illegible]
[illegible]

了鞍[illegible]今世の俗語に豹皮切付[illegible]彫漆塗[illegible]
障又敷金襴唐皮鞍表裏[illegible]紬地組手綱○同建久
十年二月廿二日春日参詣[illegible]次使[illegible]馬鞍新[illegible]部
大納言紅[illegible]被[illegible]遣[illegible]舎人[illegible]水干小袴[illegible]○後[illegible]
[illegible]の鞍の海なりけり[illegible]の[illegible]
[illegible]なる[illegible]の明[illegible]
水[illegible]人の[illegible]水[illegible]人[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

○白鞍　馬鞍

○安多武久語上巻人[illegible]白鞍馬鞍[illegible]
[illegible]
[illegible]但[illegible]の白[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]又馬鞍[illegible]
馬地の鞍[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○鏡舞　明三ヶ[illegible]

[illegible]

○世[illegible]七種の作[illegible]

[illegible]

諸舞の記所幸舞[illegible]

[illegible]

○世[illegible]七種[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○台記久安二年九月廿七日晴廿日[illegible]

[illegible]

天[illegible]

[illegible]

○源平盛衰記　小坪合戦の事　畠山

[illegible]

○四海太平記　大永五年[illegible]十二月三日

[illegible]

○今[illegible]

[illegible]

○同　[illegible]

[illegible]

○[illegible]年家物語

[illegible]

○今[illegible]四海[illegible]平記年家物語の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○安多武久路中切三つ[illegible]の人何号答云[illegible]鞍の[illegible]音
[illegible]武家[illegible]武家[illegible]
[illegible]二十一年[illegible]鞍の形[illegible]
今時人の吾朝[illegible]形[illegible]一口は
本の上代派[illegible]張[illegible]同[illegible]
[illegible]後輪の[illegible]
[illegible]
[illegible]

翠蓋空蹴蹄。劉良曰銀鞍以銀以飾鞍

○御車鞍

○諸鞍日記

○きらくの泥障

○同　きらくり泥障さく　[illegible]

[illegible]

東儀後後年自[illegible]

の[illegible]

中　[illegible]

○切付　きらくり切付　鞍　きらくり　脊屏なり　鞦

○明月記　建暦三年七月[illegible]

[illegible]

○建武二年四記　武者所[illegible]

朝切付[illegible]

[illegible]

是也[illegible]又和名抄[illegible]鞦の[illegible]也駒鞦[illegible]

上切付[illegible]

考[illegible]

切付[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉篇[illegible]鞦鞍鞦也薦同[illegible]

ワラムシロ措也又滯[illegible]

[illegible]

[illegible]

鞨の程なる也とあるは何の軍勢なるか不審なり
なほいとゝ仕なく今の上切付なる和名抄に今の上切付なる
事は知しる事の切付なるとあるは高麗國の
こゝろなるべしと考へしるべし
切付なる名目和名抄延喜式等に見えたり飾抄和鞨の
鞨なり高位虎豹竹豹章鹿具なるの糸
なるべし
武家の切付も古へ虎豹唐の
なるの類なるべし
切付のもの古事記等よりもいとゝ
東夷の所見南蛮の所見歟の切付なるべし又蝦夷の云軍器
考に靴脊の事和名抄に引て奈甘い今の虜付なる
事考るに此今の切付なるべし既に和名抄に靴脊と
書て奈甘と訓し延喜式に脊靴と書て也甘と訓
し飾抄に大帽と書て大帽と訓しなまつ和名

抄の靴脊は今の切付なるべし弥る鞨下の靴
脊也とあるは鞨の事也又延喜式の脊靴
和名の異なるは今の切付なるべし
脊靴と云ものは東夷を以て作り其上に布をかけ
こゝろ即鞨帯なる事鞨の也
の也ナなる緋韋なる包なる物を以て紅なる靴
脊脊靴なる切付鞨は虜付なる虜付なる又飾抄の
大帽なるものは唐鞨の飾なる和国なる見なる平飾
抄に考るなる唐鞨の所は大帽なる切付なる障は所
紅障の代なる大帽なる物なるなる物なるなる帽なるなる
うなるなるの韋なるなる物なるなる
の飾なる緒頭韋張大帽なる歟の所なる赤帽なる又生
と云なるなる列国或なる小草韋は用なる

○考なるなる

○虎皮下鞨

○敵來集四 筑紫にて上ちうに或ひと帥西家のあり
後伊勢の小侍の和紙しけ料とうりけるとて
みちのくに行けるに人へ〻つかはしける
人〻のうたのゆゑにかはるものなりけるとて
なりにたりけるうたの書きてくはへたり

○弱弦の琴

空穂物語琴考

○木鞭

本草綱目に西土にて据木にて作る据は宮書
に丘於切說文横木也横は横陸氏曰据木節腔似杖老子今靈
壽是也今人以為馬鞭乃杖名はい据木にて作る
なり能抑にて作るなり

○馬鞭は木にて竹にて

○鞭 むち 策 むち

○今の世にいふ

類聚歌苑にもとあり

とあり鷹にうちたる古いうちうち
いうちうち拾遺集にもとあり今はいたの山み
ちにあるものなれば外のゆゑにかくいふなり
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうち後世の人のいふなり
ちうちうちうちうちうちうちうちうち今
ちうちうちうちうちうちうちうちうち

○拾遺集十 御哀 聖德太子所遊山通り生人の家に於て
ちうちうちうちうちうちうちうちうち人の家の前にて
まりてうちうちうちうちうちうちうちうち
ちうちうちうちうちうちうちうちうち

○朱漆策金の鞭

○熊野神宮神宝絵巻物にゆゆしき朱塗りの鞭金銅の
鞭にて長さ四寸ばかり細く造りたり

○邁 むち 極 准南子

○文選 長笛賦 馬李長 近世雙笛後差起差人
代竹未及已、龍吟水中不見己、截竹吹之声相似

剡其上孔、通洞之裁以當適竹瓜切便五臣本作使易持
云云。注李善曰、裁留以當適故便而易持也適
馬策也

○鍛　むちのりづつ

○澁い言のむちの石突の
所ニ立ちくぼ[illegible]
[illegible]

○淮南子道應訓　白公勝虐乱罷朝而立、倒
杖策、鍛針上貫頤血流至地而弗知也、鄭人聞之
曰頤之忘、將何不忘哉。注策馬棰端有針以刺
馬謂之策、倒杖策故鍛貫頤也。○同上氾論訓
欲以樸重之法治既幣之民、是猶無鏑銜縻策鍛
而御駑馬也。注鍛揣頭箴也

○藤鞭

○法鞭改弘仁之宮内省式　藤鞭桐火揣ともに弦ともに三尺上
[illegible]

安元年宮内省式の中の歌

○鞭指　むちさし

○侍元年宮内物語

○安元年宮内式　或人問云和名抄云
和訓もちゐ〻〻逐駑駘のもちゐ
注しるし其ものも相凌のしるし　壽俊答云宮内省
式生い友巻の鞭さしと云ふ小笠原及笠書の説
[illegible]
心中の古言珍巻の義家の陳中に軍士所功賞の物の
[illegible]
[illegible]
友鞭のいそ又除所雖云の金鞭以紙捻代友巻
[illegible]
[illegible]
[illegible]
壽俊答云[illegible]

北改

友巻

又或人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此心專用為王悟亟還之○日本書紀云大泊瀬
幼武天皇雄略九年七月伯孫甫廿產兒往賀聟
家而月夜還於蓬蘭丘譽田陵下蓬蘭此云伊致寐岐蓬蘭
將赤駁者其馬時灌畏而龍翥欲聳擢而鴻驚異
體蓬生殊相逸發伯孫就視而心欲之乃轉所乘
駿馬府頭並轡○後撰集十九離別　伊勢
人とりかとめつるなりけりあつの河原にこそ
つるのうきねしなれ　ちとせのうちにいかでかは
かへりまうこむ

○鞭袋

○延喜式　たゝ裏式

類聚名物考卷二

○武藝部　十七

馬具

○之掛　こしがい

○尻懸　しりがい　鞦　胸懸　むながい

額懸　ぬかがい　ぬかがいとは額の上を合せて之がいとは
別なり向へ引きかけるなり　之掛相通ずなり
今の之掛合せて押懸と云ふ　額掛を面懸と云ふ
常府表所行事の什物に馬具の事あり　寛文
馬具とは鞍鐙轡手綱の類なり　寛文
もはこのかけ　押懸　ぬかがいとは
額の上にかけ　ぬかがいとは
○轡　くつわ　轡とは口に
銜の合せ　銜　くつわ　口にくつわ
語なり　口にくつわ　口にくつわ

[illegible]

○尺素仕来 [illegible] 長弁鞦 [illegible] 弁鞦ハ地名ヘ武鞦ト書弁

持しりをかれ ○ [illegible]

○彫鞦

○[illegible]記建暦元年七月廿六日 [illegible] 水干鞦 [illegible]

文指掘 [illegible] 切付 [illegible] 草鞋 此際 [illegible] 彫鞦金泥障又表金

塗庫及鞦後

○平鞦 [illegible]

○同 建久十年二月廿六日 [illegible] 前駆二人 [illegible] 長

一邦友差貫 (孟陸義ヘ布衣半袴) 用例鞦平鞦 ○同 天

福元年七月十九日 [illegible] 大炊御門殿 [illegible]

宮御供 [illegible] 依人 [illegible] 只平鞦例鞦 [illegible]

あ尽く

○絡鞦 [illegible]

○建武二年四記 武去所蒙 [illegible] 絡鞦 (鞦) [illegible]

仁二月御[illegible]園 [illegible] 一人 [illegible]

○尻鞦 [illegible]

○安永武久改 [illegible] 寿俊考 [illegible] 和名抄 [illegible] 鞦唐式 [illegible] 諸

蕃入朝調度帳幕鞦 [illegible] 鞦憲量事供給 (鞦音和名利加岐) [illegible]

[illegible] 面鞦胸懸 [illegible]

延喜式 [illegible] 胸 [illegible] 面 [illegible] 記 [illegible]

桃花蕊 [illegible] 鞦 [illegible] 書 [illegible]

強 [illegible]

[illegible]

又 [illegible] 今世 [illegible] 押懸

[illegible] 古雅 [illegible] 又和名抄 [illegible] 何

[illegible] 飾 [illegible] 何 [illegible] 又音相通 [illegible] 今

の俗 [illegible] 又 [illegible] 延喜式 [illegible] 造所

鞦一具料 [illegible] 絲大一斤六両一分四珠

二

一両二朱鞍料一斤　五両一分二朱鞦料
馬鞍一具料として[illegible]商[illegible]
建久六年十二月十七日　今日内記兵庫允注進
染鞦之故實依別仰也　彼家代々於上総國令奉
行此事　又享保の行事家の所作日記所載の
流鏑馬の作り様　又の押[illegible]
の作り様　又の様　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢書云按佩刀截馬當胸漢語抄云珠胸無奈加岐

○飾抄

胸懸七尺一寸廣如屈懸杏葉又云金物九と云又
時経の毛傳に鐺馬帯也正義曰膺是胸也若今之
妻胸也と云又詩朱傳に鏤膺鏤金以飾馬當胸
帯也と云詩経の注に鏤膺と云又妻胸ともいふ
歩揺ともいふ又杏葉のごとく其数の定まりなし
云々と物具装束抄に云ふ其数しるく見えず
武士の軍具に云ふ所に云ふ○今案に面懸
胸懸尻繋の三を合て北行上人の装束
云がごとくして北行上人の装束
の馬にもこれを用ゆ盛の云々と云懸
但の抄に云ふ合せて用ゆ者也
○杏葉抄云云
之懸の杏葉抄に略言すれども云習はず
見抄太平記にも杏葉抄の三以下

○太平記に関東大将上洛しける
ものの和一の人に乗せられ大人之すがたにて坂東の名馬
に乗りて後の捨少年を今員にして舞ひ乗りて出
来の杏葉打たる鞍置て

○泥障 ちりよけ

○明月記建暦三年七月廿五日条に水ら舞物仮切付
彫敷塗泥障文黄金塗云々

○うつぶ塗泥障と云
後世の板泥障とりの物也 色皮ちりよけ 幸
くくりつけるものなり

○安多武久治ト翁人云和名抄に障泥唐韻に韓障
泥和仮利 鞍飾也と云ふ
古今の製作の違ひ古今の新の異也
吉と今との製作の違ひ 寺後答云可
製作古今大に違ひ 只大同小異
つまりも但し文字のもの近書式 和名抄に障泥や
注に云 飾抄 桃華抄に障泥や上に云注

[illegible]
[illegible]は延喜式の所謂毎年一月の[illegible]
又[illegible]毎年一月[illegible]造る[illegible]の[illegible]
[illegible]古い[illegible]
[illegible]則延喜式[illegible]
聽五位[illegible]者[illegible]又飾刀[illegible]桃華[illegible]
[illegible]
[illegible]但[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○鑣　淮南子　十三

○又表仕來伴所海部郡淡路弁熟弁豊前弁[illegible]○淮南子

記論訓　今世德益衰、民俗益薄、欲以撲童之法

治既弊之民、是猶無鏑銜鑣策鎩而御駑馬也。○

注鏑銜口中央鉄大如雞子中黄、所制馬口也

爾雅注曰鑣馬勒旁鐵也○後漢書廿九輿服

志　諸馬之文安乘輿金鏤方釳揮翟象鑣龍

画云云注此用象牙○思つるに雅[illegible]鑣八今の

[illegible]の鏡[illegible]

○赤[illegible]集一[illegible]虫の[illegible]秋の[illegible]

[illegible]誰の[illegible]の聲の[illegible]

○鑣

[illegible]

○文選　舞賦　傳武仲　龍驤横拳揚鑣飛沫。注

鑣馬勒旁鐵也○安多武久路下或人例の字多

和名抄の鑣字の[illegible]辨[illegible]雅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文段[illegible]雅[illegible]考[illegible]

ソウ　鈴ノバミ　連續[illegible]鑣ノ

[illegible]和名抄[illegible]延喜式

七

し鑣の字を記したるもの多し扨又轡ノツハヅラとも云
字ハいかがひくつとも定ハ一ツの仕様の字
迦名の字を轡とも勒とも記したるもの多し別に考へ
引書合図ハ字彙云馬銜の外鐵也口輪とも云義と
くつわのかぶせ又引手ともいふくつわ
ともいふくつわの板是等ハ皆ハくつわの字
相應とする故和名抄ハ
上紹國鑣廿具とあり
續日本紀ハ
物を含ませ銜とも君命を奉て行し又銜命とも云
字彙云銜有て勒と云又鄂中記云石虎諱ハ
勒馬勒を呼て轡と云ふ勒轡同一字なれ
ハ用ひ来りしハ口輪綱とも義と宜しき

扨又轡ノツハヅラとも云
鑣
引書
銜
字彙云馬銜の外鐵也口輪とも義と
銜ガンツハミ
引手とも連
銜鐵字彙云ハ口
轡

ハ車ハ一系ハ
和名抄轡の字俗
久都和とも云ハ昔より轡の字銜鑣の字ハ
用ひ来りしも又轡の字ハ
共に合せて沙弥記ハ
記ハ五年九月天皇淡路の島に狩し是日河内飼部半
駕従轡執とあり
軍器多の所見ハ言語ハ
或人の軍器多承轡
し岐ハ一ツ七寸と注
古事記ハ
合ハ又庫の兼轡と日本の承轡と製作の違
軍器多ハ故
兼轡ハ華ハ作の沙弥の言ハ
ハ鉄ハ

和名抄轡の字俗
仮名抄轡の字
ハ
ハ
ハ

○蒺藜衛

○和名抄 調度 蒺藜衛 雜色立成云蒺藜衛 宇波良

○軍器考 土倭名抄 蒺藜衛 宇波良

具都和 ○今考 蒺藜衛

和名抄 宇波良 刺の立

荊棘の紋 草部 蒺藜草

本草云蒺藜 蒺梨 名波 ○倍和と言

濱蔆 河 蒺藜

額の字 蒺藜

蒺と書 俗書

○鈴虫衛

○武德安民記 本朝

○手繩

○明月記 建暦 七月廿日 海豹皮 切付

○勝獄 塗泥障 金沈庫皮 海豹 付地組

手繩 ○源室集 人ちの

○小月記 天福二年

七月廿日 宗尚 青侍 大嘗祭 埋

由 玉鞍 橋 紙 薄 沈 古 綾 手繩 侍 大 向 鞍 後

軍 布 切 ○安良武之路下 功人

手繩 非

九

義俊答云唐くりの角い則くりと角いもいづれも上古なり
一説に合云代物を手繦のもの
なりしかくの角い帯と云説一説
濃土とて京幸の紙なり
用ひしこれ延喜式に
韁韃の料とあめくりの料に細布七尺五寸韁韃の料
あ具分小竹高反分書し
又寸又八尺とし濃の上帯
切りしゆの中に股所とあ
まくあるいはまくけ
扱又義貞の事記に戦
らしくあり
やきくの
結ちりるを
りの又字いりに書
義俊答云

春村云手繦と手繦と
もいふべき儀なり又云
憤鼻褌と手繦といふ
るは義貞記にもとづ
たり

韁韃とあるものは今の手繦のもの
字を打ちたるなり
形は引鼻と京幸と混雑の
なるべの宮し平坂とあ
徳天皇の行幸田道の手繦を取
手繦を犯し猛死とあり
又飾刀に手繦
伏但
又涼宮の舞の
手繦
なりの字多い唐土の
沙彩の手繦
しかるに
まつの事は
ちまけ

韁韃とあるは今の手繦のもの
二所ある
濃土の
日本紀仁
手繦とあり
風
近衛次将手繦
平緒
黄手繦
桃華紫
雑色
又襲手
服部
十人
十

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

○さしなわ　指縄　差縄　さごなわ　赤村曽指綱の省略

○明月記　建暦三年七月[illegible]水う舞[illegible]

内倫寺[illegible]
[illegible]文指縄

○太平記　[illegible]差縄の[illegible]

[illegible]二[illegible]

[illegible]

○安[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又長縄の[illegible]手縄[illegible]七寸[illegible]立[illegible]同[illegible]

[illegible]一尺[illegible]飾[illegible]

[illegible]手縄[illegible]

[illegible]黄[illegible]

[illegible]

[illegible]寸法[illegible]常の手縄同前[illegible]但[illegible]

又[illegible]

又神[illegible]

[illegible]

[illegible]

○安多武久佐　一名武久佐御長[illegible]
[illegible]

○鐙

○足踏

○又書伝来　伴[illegible]

○足踏

○[illegible]

[illegible]

古事記上大己貴命の[illegible]

○古事記上又其神之痛后須勢理毘賣命其為
猴姤故其子遲神和備而泥譜自出雲將上坐倭
國而束裝立時后御手者擎御馬之鞍而歌曰[illegible]
踏入其御鐙而歌曰[illegible]

白金の鐙

○[illegible]

○金鐙

○明月記　建暦三年七月廿[illegible]
[illegible]
交拾[illegible]

○七條細工鐙

○東鑑　七條銅細工宗紀太[illegible]

○鑄鐙番匠

○明月記　天福二年七月二日中[illegible]
下[illegible]
青[illegible]
鐙古[illegible]

○鐙の幕を作る事

○安多の武久佐下鐙の幕作[illegible]
小坪合戦の[illegible]
鐙の幕作[illegible]
用[illegible]
宿須可幕及行槽者御馬四匹布幕二口行槽二

板真行槽者牧寮但幕臨所清長与朝之幕
[illegible]
[illegible]
[illegible]
傳[illegible]又小玉篇云覆上曰幕又續宝暈云幕
オホヒ
ヒデアテ
[illegible]又臂脛衣也[illegible]鎧[illegible]
[illegible]盛長記小幸者の誤[illegible]鎧と鎧と書誤
[illegible]幕[illegible]
[illegible]
[illegible]
幕[illegible]澄の油と[illegible]民考

○[illegible]

○義経記八橋弁慶[illegible]
[illegible]
又牧[illegible]切[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]寿後答四[illegible]
[illegible]力幸の[illegible]
[illegible]元年[illegible]今俗美

廿金

[illegible]力幸[illegible]
[illegible]
[illegible]澄[illegible]
[illegible]右の如く[illegible]
[illegible]力幸の[illegible]

○今案[illegible]
古[illegible]文字小洋[illegible]の方[illegible]
又伊勢物語の歌[illegible]
[illegible]後世好[illegible]人の[illegible]名付[illegible]
[illegible]の歌小澄の名所[illegible]
[illegible]
[illegible]又俗[illegible]美廿金[illegible]
北言[illegible]又[illegible]の上[illegible]
[illegible]
[illegible]

○鐙の鈸具 物

○丁津坂事安決人澄[illegible]明[illegible]家に何[illegible]波具又小

鐙具と書て證とかくなり公家の裝束の中に石帶
等の名也證の訳の逆朝を鞭て後代と鞭て後代と
と渡をとる

○鞭撻 キタウ

○明月記 建暦元年七月廿八日 童引塩水を少擣
後其帷鞭撻俗脚巾
小袴盛撻俗脚巾 調布鎧青丹参染 水を

佐く木掛

○安多武久路下 ヲヒと今の字なり

○鞍鐙 ちのミ

○同下 現人神軍器考に地神の御代に鞍鐙を造る
る事なり事なり事なり無しかるに何事なる
ちのミと云義い和名抄に鞍の毛皮脚に垂る事
いまだ手柄とする毛皮河ちれい地神の御時既
ニ云ちのミ鞍ちのミ

るなりとなれい其御代を定まりしるい出作
なり其御の證製作り様なるべしと所見なり 然く人
代の後ちなる夷國の證の字ハ沈鞍の字ハ沈金
中ちるなり心和銅秘抄の中ちのミ同人代のちのミ又い夷國の
證とその用い同ち故又字い同しくちのミと云夷國
の字ハ正字通ニ鐙去声今の馬鐙馬鞍の両旁の所
略也方書ニ馬鐙野曰燐 燐火ハ沼或い火光幽没馬燈
ハ風ニ相戛ニ聲ハ仍ち滅故ニ張華ニ金華ニ
振ニ遊光ハ鈦泙ニ金華い馬鐙ハ事なる鐙ハ
本鋌中燈を置の為燈具也後世以火燈ニ作て燈火
の燈ハ鐙ハ以ニ馬證ハ云ハ六國以前騎ハ
故ニ古書鐙ハ見ハ之い流の字ハ草騎以後の
字ハ用又延喜式ニ見ハ大壺鐙木鐙等ハ此
流ハ今ハ五六世ハ馬ハ歩ハ騎ハ為ハ
ちなるなり其分飾ハ證今同右唐鞍等ハ

桃花流水の詩に沈八壺
古長半古と打て参る

古今一号倫と云て世代流離の者なるべし
[illegible]又行幸の古振濃州幸の古長平
壺滝の名目なるべし
銀の壺流とて[illegible]
岡も見て其神社の霊[illegible]
[illegible]香[illegible]
合物の所皇[illegible]宗武蔵流[illegible]
見て武蔵流[illegible]
[illegible]
其国の名産にて上品[illegible]
[illegible]
武蔵流[illegible]
武蔵国の[illegible]
代滝の上品[illegible]
[illegible]

右の歌の詠い大概書
或人云小評
[illegible]
近

仍の流[illegible]
[illegible]五六[illegible]
見て[illegible]
武[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○雪珠

[illegible]

○唐舞の名[illegible]

[illegible]

○夫木抄 家集庭上桐 [illegible]

庭[illegible]

[illegible]

○八子鈴

○文選 [illegible]白馬賦 顔延年 惟帝惟祖、爰游爰豫、飛轅軒以戒道、環轂騁而清塗、勒五營便梅部聲、八鑾以節步。注呂尚曰、鑾鈴也、五營天子、國簿也、戒道清路、梅部伍、則裝八鈴以節行步。○今案八子鈴の名西土の書に九子鈴百子鈴等の見えたるは[illegible]

○南史 齊東昏侯紀 莊嚴寺有九子鈴以施潘妃殿飾。○李商隱 [illegible] 梁臺歌管之更罷、自風搖九子鈴。○司空曙詩 八響雙魚鑰、更喧

西子鈴　○後明の家に伝へ来る唐鈴つけの八子鈴なり
金銅の地にて年経て箔摩滅せり　文化十年
赤銅の黒漆塗に金銅の地のこと
写すまつ珍玩弾弼の比なり

八子鈴圖

○杏葉　きやうよう

紋ある杏葉は牡丹らしの五葉松ことなり　されども杏葉
なり　三葉ならば杏葉　杏葉の加良毛ことに
河内の堺二枚合せ　杏葉牡丹は紋なり　諸家紋
松は今俗にいふ抱き荷也　杏葉は荷也
なり　江東曹継善の雑録に説く碓石

○ぎやうとうして同君し

の模様なり　金量羅紋　金量数皇　和抹畫者
皆畳皇　或量加卯　教皇
杏の葉なり　杏は和河唐桃俗にいふ
○四方出　吉ます　四方子　吉出　貫鞘
○安多の武久路ヤ　和名抄　鞘天保　鞘賀礼比　都気
寺俊答に古へ今至まで刑部の舞員
の出たりしものなり　後の格の左右（洞徳
衛まい草なるべし　或は三角或は九角小さき
松ノ　数四ツ組　行ものし　是ハ出たりし
もとより組手紙に幸徳の歌一尺六寸ばかり二條
しく見せて　銀舟入い捕舟　銀の馬の
銅の事　結舟　結舟　結舟
なるべし　持ノ　名号の歌　結舟

の緒とすること則今音物法と維義法任付法と云條
が大君沢勝と今〻鈴音の貢物〻〻〻と云〻鞆の上
つ附け〻結付のけ〻〻〻

○宴多武久路下知人（軍器ヲ）和名井功引　縄ハ之の服帯也
俗ニ波流比と云又由木搦ト云　古之俗ニ云
しなしの服帯の製ニ云矣也之の三見ニ云ハ又和漢
之方図書ニ云ハ縄磐和名波良比比磐ト
俗ニ云長服帯按縄長四尺許芋組縄也磐長一丈
二尺柿染布也軍陣用ニ尋常不用ニ之ハ
ニ向ヒ事後答云軍ニ云ハ今時也又和漢之方ニ
命ニ云ハ紙ニ云ハ一向ニ云ハ
然和名抄ニ腹帯唐韻云縄和名波良比比磐音盤和名比
同礼注云縄大帯也云ハ又磐
延喜式ニ内舞一具ニ造料ニ云ハ細布二丈七尺四寸五尺
腹帯料　又廿舞造ニ料ニ云ハ調布五尺小腹帯料又走馬の舞
造ニ云ハ調布二丈七尺小腹帯料又賀茂二社
祭走馬十二疋調布表腹帯七尺五月五の節
式ニ云ハ表腹帯料七尺ニ云ハ

腹帯ニ云ハ小腹帯ニ見ハ和名抄
縄ハ之の服帯ニ云ハ又走
馬の服帯ニ云ハ和名抄ニ磐ト云ハ見ル
舞の時ニ云ハ武士ハ腹ニ巻ハ
舞の時ニ云ハ武士ハ小腹帯ト表腹帯ト
舞ハ俗ニ武士ハ腹ニ巻ハ
ニ云ハ八幡殿ハ
義貞ハ軍ニ云ハ
方ハ仕ニ云ハ仕
ニ云ハ軍旅式ハ
ニ云ハ又桃花華の服帯白由木搦又物具
装束ニ敷員搦ニ云ハ延喜式ニ見ハ小
腹帯ハ云ハ腹帯ハ云ハ
故の名ニ云ハ右ハ腹帯ハ云ハ
云ハ又知人ハ云武士ハ柿染の布ハ

○皆

ゆるはなとつよ古画せるに一面見えたる人の
つくりの婦の立ち居いとまいりて皆ちりちりとよりて
とかき後人の出るなり人の立人
いとまいりて婦ちりとりて治平の
世のもとちりとりなり○拾遺集に見えたる
ちりとりの衛鑣(クツハミ)のもの又いとのひいての皆ちりとり
いまこの洋なりとも出でいとまいりて
○拾遺集四季部に見えたる東西の雅東路や知つるこちら
ちりとりて沈みたるもかわるとりの
○金皆 りんぐり 草鞋 衰膏藥
○安多武久路下知人の軍の侍りけるこちら沈川馬

帰るとく家よりこの住まいの松の脂とすの皮の毛皮より敷とる
薬種一味なり人間とく行く前一つとく海の内へ出るとく家
時に出すとも瓜痛むとなり毛皮皆とて裏ひとく
とくとくとるとりや 寿候答云軍敢の云る草鞋うつ
の苦く一種こと云ふ事なりしとも既て皇帝年中
紀毛国の人訪義安盛とる敢へくしものとりても尋ねの皆と
云ふとて洗ひ物とこと云ふ婦の出るとこと洗の
汗とこと所の上まくとサもとも日数四人十日程とこの寸法
とこと用を遠く其後い又サとこと宜しとこと安盛則
とこと試こと人試こと試こと婦毛とこと折と遠
路に寄とる方とし心痛とこと高く宜く又い仏とこと痛心
とこと氷の上又は石多くとこと松の方の皆
しく故是婦とこと出るとこと所の方の皆
所の試こと人とこと前侍知つ人とこと

○口 籠 くちこ

○荷付とこと御とこと

[illegible]

○拾玉集四里前後楽百首歌　言葉[illegible]

[illegible]

○取手緒　鳥手

[illegible]

○[illegible]

後漢書七十四　列女董祀妻傳後漢末離亂追懷

悲憤作詩二章[illegible]卓衆來東下、金甲耀日光、卒

士人脆弱、來兵皆胡羌、獵野圍城邑、所向悉破亡、

斬截無子遺、尸骸相撑拒、馬邊懸男頭、馬後載婦

女、長驅西入關　○[illegible]記　建稲二年七月[illegible]

今音物尤

[illegible]

○皐章

○東山殿年中行事十二月[illegible]皐章十[illegible]

畠山及今[illegible]

○籠頭　[illegible]

○延喜式三四時祭下九月祭、伊勢太神宮神嘗

祭、帶帛二管[illegible]舞二具馬四疋籠頭料布一端

一丈四尺

○馬中 馬中 文選 注文

○古今集 小野小町 家集 [illegible] ○同 [illegible]

○新大方廣佛華嚴經 卷四 羈鞅 ○布麟音義ニ上居亘反、下於兩反、王逸注楚辭云、以韋絡馬頸也、釋名云、羈猿也所以猿持縻絆○文選弔二西京賦 張平子 搖水勃馬 [illegible] 潛牛。注 [illegible] 又曰馬絆馬也○莊子 [illegible] 四 馬蹄 [illegible] 伯樂曰我善治馬、燒之剔之、刻之雒之、連之以羈馬編之以阜棧馬之犯者、十二三矣○音義羈居宜反廣雅云勒也、馬丁邑反、徐丁立反、絆也、李音述、本或作馽非也馽之樹反、司馬向崔李並作縛、向云馬氏立縛崔云絆前兩足也、阜力老反、櫪也、一云槽也崔曰馬囲也

絆 羈鞅

棧士板反、徐在簡反、又士諫反、編木作闌檻似牀曰棧、以禦濕也、崔云木棚也○今案羈[illegible]廣雅[illegible]勒也注[illegible]馬[illegible]絆也[illegible]馬[illegible]前[illegible]動[illegible]今俗[illegible]繫[illegible]阜[illegible]三つ[illegible]又槽[illegible]囲[illegible]馬[illegible]木棚[illegible]

○馬具

○舜水文集 [illegible]勒鞍鞦 俱成、雖不能精、差可脫俗耳、且不俗於此等事、向不留意、故不能詳也、按圖索驥、多有不相合者、惟頷上之纓及項鈴之所垂者、皆用纓繆、而工人堅謂纓繆、離覓、今用馬鬣

染色、陟不中大觀也

○介馬　○介馬文選[illegible]

春秋左氏傳　晉郤克与齊侯戰[illegible]齊侯不俟介馬而馳之　○文選　晉紀論[illegible]今舟沉舟之峻、介馬桂陽

○具裝

○通鑑　宋文帝紀　以具裝被象。注馬甲謂之具裝

○馬甲　[illegible]　○介馬

○前漢書九十九　王莽傳下之年正月九廟蓋構成納神主、莽竭見、大駕乘六馬、以五采毛為龍文衣著角之尺。注以被馬上　○[illegible]

馬甲[illegible]

[illegible]

○後漢書五十九　何進傳天子親出臨軍、駐大華蓋下、進騎小華蓋下、礼畢帝躬擐甲介馬和無上將軍行陣之西而還[illegible]。注介甲也

○馬冠

○同[illegible]輿服志駕六馬、象鑣鏤鍚、金鍛方釳、揮翟尾。注獨斷曰金鍛者馬冠也、高廣各五寸、上如三華形、在馬髦前、方釳、鐵也、廣數寸、在馬鍛後、後有三孔、揮翟尾其中、薛綜曰釳中央兩頭高如山而貫中翟尾結著之下畧

○金鍛

○蔡邕獨斷　金鍛者馬冠也、如玉華形、在馬髦前　○文選　舟敬皇后策文　謝玄暉陳象設於園寢兮、映輿鍛之紀　○馬皆具

○前漢郊祀志　沿有司、增雍五時、路車各一乘、

駕被具、西時晦時、富車各一乘、富馬四匹、駕皆具、
○注師車被馬之飾皆具也被音皮義反

○馬槽

○雅亮裳抄上、内侍家歩行大食の所尊者の
りしひむ行くさくさくちりうわくうあの
ちりうわくしくわくし○後撰物語今の世ちいつこ
布袋よりまさるとなくさ袋ちりうわ
袋ちいめる袋ちりうわとなくさ馬槽古へ
うれの如ゆりしりうの袋ちりうわ
しとちりうの袋ちりうわくしくわくし後撰
しく上拜ち伊賀保の所ちりうまりしく
そのつくしくちりうの本のみ所ちりうくしく
少年の如ちりうくしくちりうくしくちりうくしく向へ
いち所ちりうくしくちりうくしくちりうくしく向へ
ちりうくしくちりうくしくちりうくしくちりうくしく

大和物語

○白氏文集廿五律昨夜猶勤秉今朝尚懇維卧槽
應不起顧主遂長辭○明月記嘉祿二年海頼四
月二日己酉庁参前殿一条殿食者尤大祿法取
役庁尼宰相殿和者又所尊者牛角所毎事所法
直ちに所者ちりうの家司和泉守為長朝臣
室町殿○蜻蛉日記下卷
ちりうくしくちりうくしくちりうくしくちりうくしく
ちりうくしくちりうくしくちりうくしくちりうくしく
ちりうくしくちりうくしくちりうくしくちりうくしく
ちりうくしくちりうくしくちりうくしくちりうくしく
ちりうくしくちりうくしくちりうくしくちりうくしく
ちりうくしくちりうくしくちりうくしくちりうくしく

○馬印

古へ の制し後の世よ 印 稚 今 俗 の 氏 と 印 扶 を

以五〻日所書之印之例、印之印之後、
是〻地名也〻〻〻
○續日本紀之慶雲四年二月甲子、給鐵印十據
津伊勢等二十五國使印、駅(下上)牧(上下)牘○今義解云、
廐牧令第廿五、凡在牧駒牘至二歳者、毎年九月、國
司共牧長對、以官字印、印左髀上、(留股外為髀)牘印右
髀上、並印記具録毛色齒歳、為簿兩通、一通留國
為案、一通附朝集使申太政官○唐六典十七、凡在
牧之馬皆印○注、印右膊以小官字、右髀以年辰、
尾側以監名、皆依左右廂、若形容端正、擬送尚乘
不用監名、二歳拓番、則量其力、又以飛字印、印其
左髀膊、細馬次馬、以龍形印、印其頂左、送尚乘者
尾側、依左右例、印以之花、其餘雜馬、送尚乘者、以
風字印、印左膊、以飛字印、印左膊、騾牛驢則官名
法、其左膊、監名法、其右髀、駝羊則官名法、其頰、羊

仍割耳、若經印之後、簡入別所者、各以新入處監
名印其左頰、官馬騎人者、以騎字印、配諸軍及充
傳送驛者、以出字印、並印左右頰也○又書儀令
[illegible]
内多久作[illegible]利取[illegible]
地均而[illegible]馬[illegible]今廐令[illegible]
形雀、小雀、雉[illegible]
[illegible]
遠[illegible]
或書、大口形紙の[illegible]
[illegible]
品[illegible]
久治下[illegible]
[illegible]
同[illegible]

廐牧令
下雀目録
○安[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○金馬瀧

○武徳編年集成 天文十六年十二月 [illegible]

[illegible]

○櫪

○白氏文集廿九 詠興五首 律家僕十餘人、櫪馬之

四匹

○繫驢櫪 [illegible]

類聚名物考巻之

武藝部 十八

鷹

○白鷹記　凡鷹の鳥の精気の盛なる徨徨

增蒙抄云春鳩鳴而化鳩秋鷹化而為鳥義也

食ところを先に高ところに居て敵を待ところを法とする

八月に遠に高く飛て鳥を捕ことを此之者化鳥

元年に蒙り給ひ死仁徳天皇御鷹飼に御幸ありし

[illegible]所の正野禁野の御狩に多年行し通

後の事なり物中寛平宮滝に御幸時夜の御狩の

勝武北野天神後例の記[illegible]夜の面の象徴

[illegible]毎月左右に[illegible]御狩次に鳴[illegible]除

日大内に[illegible]貴司に数勝の良鷹を[illegible]数

の逸文抄録に曰く上毛野大夫と上毛野君助けて
前庭に蔵る白鳥を持使に取らしめ給
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○ちゝ鷹

○金槐集上雪　著聚の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○壬二集　定家々家會　野外花。文木枝四花　家澄　桜の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○百人一首　行實。文木枝の梢の羽うちの山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○月清集　秋ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○後撰集十六雄二　女のちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○同　七雄三　女のちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○同　著聚の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○白兄鷹　ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○白うの鷹の雄なれば

○大鏡第八近衛帝　鷹の行幸せしかば　山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

取りて所興の御前の上に置まつり奉りしかば　白兄鷹の鳥

○大鷹狩

○紀貫之集一　大鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○同三　大鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○同四　大鷹の中の山ちゝ鷹の中の山ちゝ鷹

○小鷹狩

○紀貫之集二小鷹狩[illegible]○同四小鷹狩[illegible]

○新撰六帖 [illegible]

○[illegible]

○散木集一 [illegible]

○鷙

○後漢書四十八蓋勲傳、乃練鵠曰、夫紲食鷹鸇欲其鷙、而亨之將何用哉。○注紲繫也、廣雅曰鷙執也、蒼頡解詁曰、鷙鳥鷘也

○飛鷹

○後漢書六十五袁術傳、袁術字公路、汝南汝陽人司空逢之子也、少以俠氣聞、數与諸公子飛鷹走狗、後頗折節奉高廉

○養鷹

○後漢書六十五呂布傳、公曰不如卿言、譬如養鷹飢則爲用、飽則颺去、其言如此、布意乃解。○老人雜話曰、甘寧每出行、常以[illegible]鷹[illegible]

[illegible]

[illegible]

今俗語ニ世ノ中ノ心ヲ人ノ幸ヒトモ云ヘリ

今武家ノ職ヲ[illegible]

○鷹一連　代一斤

一連二連ニテ鷹ノ代一疋二疋ヨリ代一方

二方ヨリ

○鷹ノ鳥

○千加原ノ九鷹ノ鳥ヲ[illegible]

[illegible]ノ鷹ノ鳥ヲ[illegible]

[illegible]

○逸物鷹

○今昔物語ニ云ク[illegible]

[illegible]

[illegible]

○白尾　[illegible]

○寶物集一[illegible]ノ帝ノ御時ニ[illegible]白尾

[illegible]

[illegible]

○崩御後鷹

[illegible]

○[illegible]

○大澄ノ八延喜帝九月[illegible]九日ノ節ハ

[illegible]

[illegible]

○鷹師　大鋼　裝束

○又素性来歴師の倫要抄若狭初源頼朝の鋪
袋居寄の馬大鋼中間を召列老ケ瀬及び
緋帽子狩衣帯大黒

○鷹鋼　文略

○大鏡方八近喜帝の御時に鷹の舞い大方の事ども
とりたてたりしかばかの方の人ども
寄の方の人ども
等の事ども
ちかまさ中山へいりまさ
ちかの殿の鷹ども
文野の鷹ども
なりまさ成まさ
ひらけ
ちかまさ
ちかの殿の鷹ども
ちかまさ

○尾鈴

○拾芥抄二勅旨百首　名
拾遺抄物師の小野の
ちかまさ

○縹　鷹子貫

○白氏文集世鷹餞受縹　文　結　先生　後難退、鶴老衆軒
亦不還　○文選　樂府東武吟鮑明遠昔如韝侯
切上鷹今似檻中猿。注李善曰、東觀漢記、拓虞
謂趙勃曰善吏如良鷹矣、下韝即中。劉良曰、韝
以皮蔽手而臂鷹也

○鷹韝

○月清集　於とりて

○鷹隼　なりの杉

○扇隼の紋と同じく鷹

の飾具宣旨ありて日本紀略

後至元間太師伯顔出大府監所藏歷代玉璽、

磨去篆文改造押字圖書及鷹隼等物以分賜

其黨与云見元史

○ちりうい　ちりうい　鏇

○鏇　澄願切旋去声、説文圜鑪也、舊注音賤、汎

云轉軸

○こまひつる

○東常縁聞書ニ云

○合槐集上雪

山ぶきの花ちりぬ

○ちりうい　鷹時

○鷹合ニ云

なりの杉

○走水船　家長　春雄　恒仲　[illegible]

○鷹鳥付板事　鳥柴

○明月記元仁二年四月八日人々物語の中長卿卿云

一日北一上亭舟小弓員魏了雄一羽酒一瓶了[illegible]

次ニ[illegible]次此事[illegible]向前江村大枝堆雄鳴鳥若干

羽酒小鳥大瓶入酒送ニ納文食[illegible]ニ　○後鳥羽院

鷹狩肉白殿[illegible]紅村の枝ニ鳥一双ニ[illegible]

[illegible]

[illegible]

又武勝[illegible]

[illegible]

武勝[illegible]

七

つけ申候ものもつる枝の七ツ或は六ツ或は五ツ或は四ツ
枝の半ばに付つる枝つまりて枝の末ばかり
く二寸計へ〜葉のつる根に成し羽のつけ
角のやうにかたく〜神前の所に枝を廣くつけ中へ
よりつるまきて長く長る大きなる石にて重を附て
あがれたるものもあり〜二梅の御所の
言橘よりもつる根を引つるめけ〜
もつる〜神前とも云へ共暴の明く後の葉に
と新宮後のものもつるの葉に廣よりつる
ちかい御宮のとしつるつる枝より
とくいりの故つるつるとも書月たるつる
付〜君つるもつる花の所の造り物
造りつるつる造花〜つるの所に心つるつる物
楽言もつる人手普通の柏木より葉をつる
表ともせつる見付る葉なり○一法言なり

生るつるもし年の内に立枝なれば花なり
付〜雄をつる付〜年内に鳴花なれば付〜
葉に鳴て実成るつる故〜付
も葉に柳枝に成し付
御見に用ひ又神前の弘雄
廣所より人のもつるつる少し又
日に付もつる切と相つる
つる知人〜春兼則の法〜○又四條大納言隆親
の法葉の付六七尺鳴雄一双に付〜ま大食
元服後此の所用て庭形つるつる根引の小松
付つる義氏弘長の法○春日殿の御
葉の付つる萩岸びつる〜何とも付て一法
ハ松つる鳴付る事〜山鳴の義家弘長後の用て鶯
萩岸の枝に付る小鳥に鳴の
の枝に付つる十月に葉に付て小春月武久の

[illegible]

○鳥柴　こしば

古へ鳥の鳥さい雑立り今の世の如く鴨のみ

[illegible]

○文木抄に雑る　寄家　[illegible]

[illegible]

○こう方　木屋

○言塵集に小鳥さいろ[illegible]

[illegible]

木屋とも[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○言塵集七帖の[illegible]

○文木抄に雑る　家集　[illegible]

[illegible]

○白府　白生

○金槐集上書　[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○後拾遺上　[illegible]

○[illegible]

○文木抄に雑る　家集　[illegible]

[illegible]

九

○鳥之　[illegible]

○支木竹之[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○鳥の[illegible]

[illegible]

支木竹之[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

音の[illegible]

○今吾邦[illegible]

[illegible]

○音の[illegible]

[illegible]

○鷹犬佳名

○小窓別記ニ　戊陵少年李亭、好馳駿狗逐狡獸、或鷹鶻遂雄兎、皆為之佳名、狗則有修毫聲睫、白望、青曹之名、鷹則有青翅、黄眸、青冥、金距之屬、鶻則有侯風鶻、揚万年有犬、名青駮、買之百金

国立公文書館
National Archives of Japan